

辰
評
述

西史學要

卷
二

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番	第	號
歷史科學門		
北アリカ州史部		
附加 合 註	總記	項
東 洋 史	年表	次
全	冊ノ内第	冊
分類 番	第	號
25 3.038		
24658		

T 1A1
24
W 35

西史學要卷二

文部省

米國 烏斯多爾原撰
日本 和久正辰譯述

希臘史

第一章 希臘ノ國勢及ビ民情

(一) 希臘ハ有名ノ古國ニシテ境域最モ狹ク僅

ニ紐約州ノ半ニ過ギ東西南ノ三面ミナ海ニ臨

ミ北ハマセドニア及ビエピリウスニ境ス原ハ希臘

汎ク之ヲ言ハバ人民ノ起源言語及ビ教門ヲ同

フセルマセドニア及ビエピリウスヲ併合ヤシ

部ヲ成スモノトセサリシハ其開明ノ進度遙ニ

數等ノ下ニ位シ當時希臘ノ分裂シテ已ニ數部
ノ民政ヲ行ヒタルニモ拘ハラズコノ數國ハ頑
然舊ニ依リテ古代ノ暴政ニ安ンジタレバナ
當時マタ希臘ノ人民ハ進テトレス小亞細亞
伊太里細細里等ニ移住シテ其版圖ヲ擴メ國
境漸ク拓ケ所謂ル固有ノ希臘以外ニ及ブニ至
リ地勢概子凸凹ナルモ水土寒暖頗ル宜キニ適
ヒ位置マタ貿易ノ便ヲ得タル當時ソノ比ヲ見
サル所ナリ

(二) 希臘ハ輿地全圖上唯ダ一點ノ彈丸黒子ノ
ミ然レ氏雅ヲ愛シ學ヲ好ム者ヨリ之ヲ見レバ
古來未ダ曾テアラサルノ大國ナリ當時希臘人
民ノ才智學術共ニ天下ニ冠絶シ後世ノ人仰テ

之ヲ師視セザルナシ是ヲ以テ凡ソ史上ノ記事
希臘ニ關スルモノアルヲ見レバ其趣味云フ可
カラスシテ萬感交至ル

(三) 希臘ハ數部ノ小州ニ分裂シ各獨立シテ自
ラ之ヲ治ム而シテ其州往々固有ノ州名ナク首
府ノ名ニ依ルモノ多シ各州ノ政體民情風俗彼
此全ク同シカラズト雖氏互ニ聯合同盟シテ外
ソノ侮ヲ防ギ以テ不虞ニ備フ所謂ル希臘公會
ヲ起シ加フルニ言語教門ヲ共ニシ又昇平無事
ノ日ニ在テハ公衆相集テ遊戯ヲ為スヲ娛ム

日天皇身
ネニ
(四) 上古希臘ノ政體ハ唯立憲君政ノ一アルノ
ミ然レ氏星移リ物換リ君政漸ク廢レテ國內到
ル處熾ニ民政ノ萌發スルヲ見ルニ至レリ

(五) 希臘既ニ分裂シテ小部ノ民政ヲ行フニ及
デヨリ後ハ史上ノ記事感激ニ堪ヘサルモノ多
ク變亂踵ヲ接シテ内憂外患交至リ讀者ヲシテ
愕然トシテ驚キ慨然トシテ歎セシム

(六) 希臘ハ方言ヘルラスト云ヒ其民ヲヘルレ
子ースト名ク而シテ詩人ハ之ニダナイペラス
ギーアルギビーアーチビーアーチエイ等ノ名

ヲ命セリ是國本來ノ土人ハジヤヘツトノ子ニ
ヤバンニ出テ菓食毛衣穴居シテ教ナキノ蠻民
サリ

(七) 往古セクロブスナル者埃及人ヲ率テ來リ
住シ後マタカダミスナル者肥尼亞西亞人ヲ導
テ此地ニ移殖ス是ニ於テ當時希臘荒陋ノ俗一
變シテ漸ク開明ノ域ニ進ム蓋シ此等移民ノ力
ニ由ルモノトス

第二章 希臘史年代ノ區分

(一) 希臘史ハ其年代ヲ大別シテ二期トス第一

ヲ暗昧ノ史期ト為シ是國太初ノ時ヨリ紀元前
四百九十年始メテ波斯ト戰ヲ交ルニ至ル第二
ヨ正確ノ史期ト為シ波斯人ノ侵入ヨリ紀元前
百四十六年羅馬人ノ希臘ヲ略有スルニ至ル

(二) 第一大期ハ正確ノ年表ニ據レバ古代ノ希
臘ナルシクヨシノ創建ヨリ起算シ其間幾ント
一千六百余年ニ亘レリ而シテ其記スル所妄誕
信ス可カラサルニアラサレバ則チ概チ暗昧ニ
屬シ絶テ正史ノ證明スベキモノナク僅ニ其之
ヲ今日ニ傳フルヲ得ルモノハ當時其事ヲ目撃

シタル二三正確ノ史材ヲ有セシ者ノ手録ニ係
ルノミ

(三) 又コノ第一大期ヲ細別シテ四小期ト為ス
其間マタ二三ノ奇事ナキニアラズ第一小期ハ
希臘太初ノ時ヨリ紀元前千八百八十四年トロイ
ノ役ニ至ル之ヲ怪妄ノ世代ト名ク第二小期ハ
トロイノ役ヨリホーメルノ登仙ニ至ル之ヲ武
雄ノ世代ト名ク而シテ其記事僅ニ史詩「アイリ
ヤード」及ビ「オデッセ」ノ中ニ存セルノミ第三
小期ハホーメルノ登仙ヨリライクロジウスノ

西史綱目 卷之二
棄世ニ至ル之ヲ名ケテ變亂ノ世代ト云フ其史
記今僅ニ存ス第四小期ハライクロジウスノ棄
世ヨリ波斯人ノ始メテ希臘ニ侵入スルニ至ル
之ヲ傳史ノ世代ト名ケ其記事信據ス可キモノ
多シ

(四) 第二大期即チ正確ノ史期ハ波斯人ノ始メ
テ希臘ニ侵入シテヨリ羅馬人ノ遂ニ之ヲ略有
スルニ至ル其間三百四十四年史上ノ事跡瞭然
證ス可シ是レミナ當時卓絶奇偉ノ士手カラ録
スル所ニシテ緒餘延テ上世異教國ノ記事ニ及

ベリ

(五) 又コノ第二大期ヲ小分シテ四小期ト為ス
其間著明記ヲ可キモノ却テ歴史ニ關スルモノ
少クシテ政事ニ屬スルモノ多シ第一小期ハ紀
元前四百九十年波斯人ノ侵入ヨリペロポ
ン子シウスト戰端ヲ開クニ至ル其間五十九年之ヲ
希臘國協心制勝ノ世紀ト名ク第二小期ハペロ
ン子シウスト戰ヲ交テヨリ以來紀元前三百六
十年馬基頓ノヒリツプ王位ニ即クノ時ニ至ル
其間七十一年國亂内訌ノ世紀ト名ク第三小期

ハヒリツプノ即位ヨリ紀元前三百二十四年アレキサンドル大帝ノ殞落ニ至ル其間三十六年國勢強大ヲ極メ波斯全國ヲ壓ス第四小期ハアレキサンドル大帝ノ殞落ヨリ紀元前百四十六年羅馬人ノ希臘ヲ略有スルニ至ル其間百七十八年之ヲ衰運漸ク至リテ擾亂踵ヲ接シ遂ニ自國ノ獨立ヲ果サハルノ世紀ト為ス當時希臘ノ國勢概シ外國ノ為ニ左右セラレ馬基頓埃及及ヒ羅馬ノ三國遮ニ之ヲ保護セリ

第三章 怪妄ノ世代 都城ノ創建

定例ノ創設 「アルゴノ一上」隊ノ遠征

(一) 怪妄ノ世代ニ於テハ國內ノ都城ヲ建設シ開明ノ基ヲ發キ文字技術ヲ傳ヘ及ビ主要ノ定例ヲ設クルノ舉アリ

(二) 古代ノ府城シサイオンハエチアリウスノ建ル所ニシテアルゴノスハチダンス族ノ裔孫アイナチユースノ設クル所ナリ俊秀絶倫ノ立法官セクロプスハ埃及人ヲシテ此地ニ移住セシメ以テアゼンスヲ建設ス始メテ文字ヲ傳ヘ

タル大醫カドミウスハセーヴスヲ創建シシス
イプスハコリンスノ基ヲ開キペルセウスハマ
イセニ子ヲ創シリレツキスハラセドモンヲ
建ツ

(三) 此世代ニ在テ二三ノ記ス可キモノアリ
相グイギス及ビデオカリオンノ洪水「オリンピッ
ク、ガムス」「イスミアン、ガムス」「ピシアン、ガムス」及
ビ「子メアン、ガムス」ト稱スル祝節クレットニ於
テミノリスノ制定セル法律「アレオパギウス」ト
名クル高等法院エリウニスノ詭幻デルヒノ神

詠「コンシル、オス、アムピクテヨンス」ト唱フル公
會其他ヘロキユルスセシウス等ノ如キ奇傑ノ
事業是ナリ

(四) 希臘ノ史上險行ノ嚆矢ニシテ其大ナルモ
ノハ所謂「アルゴナウト」隊ノ遠征ナリ而シテ
其記事史體ヲ存スルモノ少ク概テ子妄誕小説ニ
類セリ「イオルコス」ノ王子「ジャソン」親ヲ將ト
シテ希臘ノ壯士五十余人ヲ從フヘロキウルス
セシウスカストルポルラツキスオルフエウス
及ビ醫士「エスキウラピス」星學士「チロン」其中ニ

在リ

(五) ジヤソン等纜ヲテッサリノイオルコースニ解キ黒海ノ東岸コルチースニ向フ時人ツノ軍隊ヲ名ケテ「アルゴナウト」ト云フ其乗ル所ノ艦號「アルゴ」ナルヲ以テナリ之ヲ航海ノ嚆矢トス而シテ此遠征ノ目的ハ蓋シ海賊ヲ行フニ在リ世ノ史家往々之ヲ以テ希臘所屬ノ羊子ノ金毛ヲ回取スルニ在リト爲シ且ツ此金毛ハ火ヲ噴クノ牡牛ト永ク眠ラザルノ猛獅之ヲ守衛セリト爲ス妾モ亦甚ヒ哉

第四章 武雄ノ世代 トロイノ役

ヘラクリット族ノ歸國

(一) 所謂ル希臘武雄ノ世代ハ其狀歐洲武臣ノ時代ニ彷彿タルモノアリ想フニ當時ノ風俗人情宛モ中古歐洲ゴシツク種ノ國民ニ相類似ヤシト必セリ但ダ其僅ニ相異ナル所ノモノハ中古ノ歐洲國民ハ戰時ニ在テ寛仁ヲ主トシ且ツ常ニ婦人ヲ優待スルト遙ニ希臘武雄ノ世代ニ優レルノミ

(二) トロイ征戰ノ記事ハホーメルノ録スル所

ニ據ル而シテ其作ル所ノ古詩「アイリアード」ノ
題意ハ之ニ基テ成ルモノナリ此詩ノ能ク希臘
古代ノ人情世態ヲ寫出セルヲ宛然活畫ヲ見ル
ガ如シ

(三) スパルタノ王チンダリウスノ女ヘレンハ
當時第一ノ美人ナリ希臘ノ諸侯婚ヲ求ムル者
多シ其父チンダリウス嚴然此等求婚ノ輩ニ誓
テ曰ク卿等宜シカヘレンハ自ラ擇ブ所ニ從フ
バシ若シ夫レ婚ヲ結ブハ後他人ハ之ヲ奪フア
ラハ粉骨齏身ソハカヲ盡シテ之ヲ回取セヨト

ヘレン終ニ自ラメ子ラウスヲ擇ヒ婚儀ヲ行フ
是ニ於テチンダリウス位ヲメ子ラウスニ禪ル
(四) トロイハダニウスノ建設スル所ニシ
テ當時勢威大ニ振フ其王プリアムノ子パリー
スハベニウスジノリ及ヒミ子ルバノ三婦人ヲ
見テベニウスノ絶美ナルヲ擇ヒ已ニ婚ヲ約ス
ベニウスハ實ニ當時絶倫ノ美人ナリ後チ幾モ
ナクパリーススパルタニ至ルメ子ラウス厚ク
之ヲ遇スパリース之ニ報ユルニ徳ヲ以テセス
却テヘレンヲ説キ巨額ノ財寶ヲ携ヘテ共ニ逃

走セシム

(五) 斯ノ妄恩奸詐ノ一舉動ニヨリ終ニトロイノ役アルニ至レリ希臘ノ諸侯忽チ同盟聯合シテ其仇ヲ報セント欲シ一千二百艘ノ艦隊ヲ編成シ兵士十萬ヲ搭載シテトロイノ海岸ニ向フメ子ラウスノ兄弟アルゴースノ王アガノンノ撰ハレテ之ガ元帥タリ其他希臘勇士ノ名アルアトチルレスアジヤキスメ子ラウスユルセス子ストル及ビテイオメードス與テ功アリ

(六) プリアムノ子ヘクトルトロイノ兵ヲ率テ

邀ヘ戦フパリーステイホビウスイ子アス及ヒサルピトン之ガ應援タリ希臘ノ兵トロイヲ圍ム十年謀略ヲ以テ遂ニ之ヲ陷レ全都擧テ焦土ト為ル敵王プリアム之ニ死シ王族盡ク縛ニ就ク

(七) トロイ滅亡ノ後チ八十余年ヲ經テヘラクリスド族ノ内亂アリ是レ世ノ所謂ルヘラクリスド族バロホン子レウスニ歸ルノ擧ナリ

(八) 初メペロホン子レウスノ都府マイセニアノ王ヘロキユルス其族ヲ擧テ國外ニ逐ハルベ

ロツプスノ子アツトレウス其地ニ據リ王位ヲ
僭ス後チ一百余年是ニ至リヘロキウルスノ裔
ヘラクリツト族ペロホン子レウスニ歸リ来リ
悉ク仇敵ヲ征服シテ遂ニ其國ヲ復ス人民或ハ
奴隸ノ辱ヲ受ケ或ハ化外ニ逐ハル其國ヲ去ル
者ミナ小亞細亞ニ退避シテ自ラ一國ヲ成ス後
世之ヲイオニアト云フ

(九) ペロポン子レウスハ變後人民ノ去就相踵
キ國政隨テ一變ニ國內ノ區畫マタ之ガ為ニ更
新ス是ニ於テ其藝術教化ノ進歩ヲ障碍スル少

ナカラズ

第五章

スパルタノ記事
ライクル
チウスノ法度

(一) 希臘ノ二大國ヲアゼンス及ビスパルタト
ススパルタハ其兵勇悍精練ニシテアゼンスハ
文學大ニ進ミ技術巧ヲ極ム其名共ニ著ル而シ
テ其性習ノ彼此同ジカラサル所以ノモノハ他
ナレスパルタニハ立法官ニライクロチウスア
リアゼンスニハ立法官ニソロンアリテ其法規
典例各一ナラサルニ由ル

(二) スパルターニラセドモント云フ即チラコニアノ首府ニシテペロポニンウスの南部ニ在リヘラクリッド族ノ其國ニ歸テヨリ以來アリストデミウスノ二子並ビ立テ國王ト為リ之ヲ治ム子孫相承ケ君臨スルモノ數世ノ久シキニ及ベリ

(三) スパルターニ立法官アリライクロヂウスト云フ夙ニ才徳ヲ以テ著ル國王ノ兄弟ナリ其國王ツ殂スルヤ國民ライクロヂウスヲ推選シテ國保ト爲シ委ヌルニ國政釐革ノ大任ヲ以テセ

リ時ニ政綱大ニ紊ル國民之ヲ憂フ故ニ此舉アリ

(四) ライクロヂウス大ニ政體民風ヲ一變シ乃チ元老院ヲ興シ爵紳二十八人ヲ撰テ議負ニ充ツ是ニ於テ二王ナホ在リト雖氏元老議員其職ヲ世ニシテ元帥高僧其權ヲ專ニシテ王權幾ント有名無實ニ屬ス後マタ全國ノ區畫ヲ改メテ三萬九千部ト為シ人民ヲシテ之ヲ分有セシム

(五) 當時通商ノ道全ク其跡ヲ絶チ上下衣服ノ制ヲ異ニスルナク金銀ノ貨幣ヲ廢シテ錢錢ヲ

用ヒ且ツ此國ノ民籍ニ在ル者ハ國王ト雖凡日
常公堂ニ同坐會食セサルヲ得ス其食物ハ概子
フシキアロス 黒羨ナリ蓋シ華奢耽樂ヲ禁メ飲食ヲ均シフス
ルヲ以テ旨トスルナリ

(六) 貴賤上下ヲ論セス苟モ國民タルモノハ治
亂共ニ其カヲ國事ニ盡スノ義務アリ其生ル、
ヤ官ヨリ之ヲ監視シ体格強壯ナル者ハ公費ヲ
以テ之ヲ保姆ノ手ニ托シ漸ク長シテ七歳ニ至
レバ公立ノ小學ニ入ラシメ畫一ノ課程ニ從テ
之ヲ教育シ其ノ不具孱弱ナル者ハ夭死スルモ

措テ顧ミサルノ風アリ

(七) 文字ヲ教フルノ旨意虚飾ヲ去テ實用ニ就
クヲ專ラトス然レモハルタノ人民ハ其伶俐
明敏ナルニ似ズ學術ノ進歩絶テ見ル可キモノ
ナク未ダ其著書ノ近世ニ傳フルモノアルヲ聞
ス當時國人ノ言語簡明ナルヲ以テ著ハル而シ
テ其國語會話ノ一時遠近ニ傳播流行セシモ竟
ニ世ノ蔑視スル所ト爲レリ

(八) 幼童ヲ教育スルニ長ヲ敬レ國ヲ愛スルノ
志氣ヲ涵養セシムルヲ以テ主トセリ故ニ其人

ト為リ高尚廉潔ニシテ榮辱ニ感激スル一極メ
テ敏捷ナリ且ツ能ク艱苦ニ堪ヘ惡衣惡食ニ安
ンズルノ習性アリ然レ民間亦竊盜ヲ行フモ發
覺セザレバ靦然トシテ之ヲ耻チサルノ惡習アリ
(九) ライクロヂウスノ法ヲ立ツルヤ人民ヲシ
テ一種偏僻ノ氣風ヲ養成セシムルニ在テ未ダ
嘗テ闔國ノ福利ヲ暢達セント欲スルノ意アラ
ズ蓋シ之ヲシテ瞋々ノ中ニ國ヲ擧テ兵タラシ
メントスルノ妙案ナリ故ニ時人ミナ兵事ヲ以

テ人生ノ要務ト爲シ慄悍敵ニ克ツヲ以テ無上
ノ志望トセリ國ヲ愛シ世ヲ憂ヒ勇毅剛壯ニシ
テ能ク危キヲ冒シ死ヲ恐レサルノ氣象ヲ以テ
美德ト爲シ人々之ヲ養フニ汲々タリ夫ノ温厚
人ニ接シ近親相和スルカ若キハ地ヲ拂テ其跡
ヲ見サルニ至レリ
(十) 少壯ノ婦女ニシテ常ニ武術ヲ事トスル恰
モ男子ニ異ナラズ隨テ其擧止放縱無禮ニシテ
婉婉聽從ノ徳ヲ具フル者ナレ蓋シ教育ノ法之
ヲシテ然ラシムルナリ是ヲ以テ母タルモノ其

子ノ戰死スルヲ聞ケハ欣喜眉宇ニ溢ル嘗テ一婦人アリ其子ノ戰陣ニ臨ムニ及デ疾聲規メテ曰ク汝ハハ盾ヲ携テ歸レヨ否ラザレバ其盾ニ乗テ歸レト是レ克クザレバ則チ死シテ歸レノ意ナリ

(土) 當時希臘諸州内亂相踵キ四分五裂ス而シテラセドモンノ政府獨リ其稜威ヲ保チ泰然動かサルノ状アリライクロヂウス立ツル所ノ法律世ニ行ハル、五百余年ノ久シキニ及ビ其間スパルタノ勢威希臘全國ニ振ヒ其榮輝爛然ト

シテ他州ヲ壓スルニ至レリ

(土) 然リト雖氏星移リ物換リ殘忍殺伐ノ風漸ク跡ヲ絶チ其末世ニ及デ大ニ法律典例ヲ改訂ス殊ニライサンドル在位ノ時ヲ以テ最モ多シトス當時スパルタノ富盛ニシテ華奢貪利ノ源ヲ發キシハ職トシテライサンドルノ四隣ヲ征服セシニ由ル

第六章

アゼンヌノ記事

コツトリ

ウスドラコソロンピスレヌ

トラチユス及ビピニストラ

チユードノ事業

(一) アツチカノ首府アゼンスハ希臘國中第一有名ノ府城ナリ結構壮大貨財充溢シテ通商ノ道大ニ開ケ當時學術ノ淵藪タリ碩學名士多ク此地ニ出ツ

(二) アゼンス末世ノ王ヲコツトリウストスヘラクリツド族ト戦ヒ身ヲ殺シテ國ニ報エ其殂スルヤ君政ヲ廢シテ民政ヲ立テ主官ヲ置キ以テ國政ヲ司ラシム之ヲ監國ト名ク始メ其任期ヲ終身ト定ム中コロ之ヲ十年トシ最後一年ニ改

メ又其數ヲ増シテ九名ト為シ各其職務ヲ分擔セシム

(三) アゼンスニ於テ創定セル成文法典ハ嚴厲刺薄ノ士ドラコノ編制スル所ニシテ大小ノ犯罪盡ク死刑ヲ以テ之ヲ論ズ故ニ世人傳唱シテ書スルニ血ヲ以テセリト為ス蓋シ其殘忍極リナキヲ以テノ故ナリ人アリドラコニ問テ曰ク汝刑罰ハ苛酷ヲ好ム何ソ其レ斯クハ如クナルヤドラコ即チ之ニ答テ曰ク至小ハ犯罪已ニ死ニ該ル至大ハ罪更ニ苛酷ヲ加フルナント然レ

其法酷ニ過ギ却テ實効ヲ得ザリント云フ
(四) ソロンナル者アリ希臘七賢士ノ一ナリ聲
名素ヨリ著ル國民此人ヲ推シテ牧師總裁ト為
シ兼テ立憲制法ノ重任ヲ負ハレム其人ト為リ
温厚ニシテ能ク時論ヲ容レ敢テ猛ニ民風ヲ一
變スルヲ為サズ專ラ其力ヲ人心ノ調和ニ盡シ
テ放縱怒リ易キノ氣風ヲ矯メ以テ才德ヲ養フ
ノ美源ヲ開拓セリ是レソロンノライクロヂウ
スニ異ナル所ナリ是ニ由テ之ヲ觀レバソロン
ノ法度、之ヲライクロヂウスノ制定スル所ニ

比スレバ少ク本然ノ巧妙ヲ欠グノ失アルモ要
スルニ其能ク道理ニ合シ輕重ヲ審ニスルノ點
ニ至テハ固ヨリ日ヲ同フシテ語ル可カラズソ
ロン嘗テ自ラ之ヲ評シテ曰ク縱令ヒ余ガ制定
セル法律ヲシテ完全無欠ハモハタラシムル能
ハザルモアゼンストハ人民ニ於テハ古來未ダ曾
テ得ザル所ハ至好法ナリト

(五) ソロン三十歳以上ノ良民ヲ集メ議會ヲ興
シテ之ニ主裁ノ大權ヲ與ヘ凡ツ立法行政叙任
控訴ノ事細大遺サズ悉ク其議定ニ任ス又更ニ

四百名ノ議貢ヲ徵聚シテ元老院ヲ設ケ曾テ廢
レタルアレオバダウ高等法院ヲ復興シ貧富ニ從テ民種ヲ四
等ニ區別ス後マタ元老院ノ議貢ヲ増員シテ五
百名トセリ

(六) 當時政府ノ農商ノ業ヲ勸奨シ工藝理財ノ
道ヲ誘導スル極メテ厚シ且ツ怠恩不孝罵詈ノ
行跡アル者ハ必ス罰アリ父ニシテ職業ヲ其子
ニ教ヘサル者ハ老後其侍養ヲ要ムルノ權ナシ
夫ノソロン制定ノ法典ハ時人仰テ金科玉條ト
爲レ後ノ法ヲ立ツル者亦皆コレニ依ル

(七) アゼンス及ビスパルタハ其法律各一ナラ
ス隨テ風俗民心ノ彼此同レカラサルモノアリ
アゼンスニ於テハ人ミナ藝術ヲ貴重スルノ風
アルモスパルタニ於テハ曾テ之ヲ顧ル者ナシ
アゼンスハ國情常ニ平穩ニシテ人民ノ志望專
ラ文雅風流ノ生ヲ送ルニ在ルモスパルタハ戰
闘ヲ以テ人生ノ要務ト爲シ武術ノ外絶テ遊戯
ヲ樂ム者アルヲ見ズ之ヲ要スルニアゼンスノ
人民ハ華奢ニシテ温厚ノ品性アリスパルタノ
人民ハ節儉ニシテ刻薄ノ氣風アリ唯其相均シ

キモノハ共ニ自由ノ守防ニ熱心ナルト戰ニ臨
テ勇敢ナルトノ二者アルノミ

(八) ソロン未ダ死セザルノ前ピシストラチウ
スナル者アリ富有ニシテ辯ニ巧ナリ百方計ヲ
用キテ民心ヲ籠絡シ遂ニ無上ノ権力ヲ掌握シ
五十年間其子ノ世代ニ及ブマテ能ク之ヲ保持
ス其ノ政ヲ施スヤ規模廓大ニシテ盛ニ學術ヲ
勸奨シ始メテ公用ノ書庫ヲ設立シホーノルノ
詩書ヲ合冊シテ壹卷トセリ

(九) ピシストラチウス終ニ主權ヲ其子ヒツピ

アス及ヒヒツパラチウスニ讓ルヒツパラチウ
スハ一ニピシストラチウドト云フ共ニ立テ其
政ヲ執リ英明ニシテ節度アリ一時衆望ヲ収ム
ト雖氏久シカラスレテ大ニ權ヲ弄シ天下怨望
スハルモデイウス及ビアリストギットンノ二人
黨ヲ結テ叛シ竟ニ政府ヲ轉覆スヒツパラチウ
ス之ニ死レヒツピアス走テ波斯ニ逃レ其王ダ
リウスニ寄り後チ本國ノ兵トマラゾンニ戰テ
死ス是時ニ當テダリウス希臘ヲ併吞スルノ志
アリ陰ニ之ガ經畫ヲ為ス

第七章 紀元前四百九十年ヨリ四百

三十一年ニ至ル

(一) 波斯ノ兵始メテ希臘ニ侵入シテヨリ以來
パレポネ子シウスト戰端ヲ開クノ時ニ至ルマ
デ世之ヲ稱シテ希臘ノ榮世トス而シテ其ノ波
斯ト兵ヲ交エルヤ連戰連勝史上傳フル所未ダ
曾テ斯克ノ如キノ盛アルヲ聞カズ
(二) 是時ニ當テ波斯ノ權勢天下比ナシト稱ス
其版圖亞細亞土耳其埃及并ニ韃靼ノ大半亞刺
比亞ノ一部ニ及ビ希臘殖民地ノ小亞細亞ニ在

ルモノ并ニスレーヌ馬基頓尼亞等ノ如キ亦其
所轄ニ屬ス是ニ於テ波斯ノ餘威幾ント希臘屬
部ノ全局ニ及ビ漸ク延テ其本國ニ迫ルニ至レ
リ
(三) 希臘ノ人民ニシテ亞細亞地方ニ在ルモノ
叛旗ヲ飄シテ波斯ノ機軸ヲ脱セント欲スアゼ
ンスノ府民之ヲ援ク波斯王ダリウス撃テ之ヲ
夷グ既ニシテ又大ニ見ル所アリ決然大舉シテ
希臘全國ヲ略取セント欲ス時ニヒツピアス猶
ホ波斯ニ在リ奮然トシテ此舉ヲ助ク

(四) ダリウス使ヲ希臘諸州ニ遣シテ其民ヲ諭シ水土ヲ獻シ以テ服從ノ誠意ヲ表セシムセリ
 プス及ビ其他二三ノ都城島嶼ノ如キハ已ニ懼服スト雖ルアゼンヌス及ビラセドモンノ人民ハ泰然トシテ從ハス激怒ノ餘リ終ニ公法ト仁道ノ守ル可キヲ忘レ其使ヲ殺戮シテ凌辱ヲ極ム或ハ之ヲ深坑ニ投シ或ハ之ヲ井底ニ墮レ大聲嘲テ曰ク奴輩其處ニ就テ恣ニ水上ヲ採リ去レト

(五) 既ニシテダリウス總軍大舉シテ海陸并ビ

攻ム海軍ノ先鋒ハマルドニウス之ガ提督タリ
 アゾスノ岬角ヲ彎航シテ暴風ニ逢ヒ戰艦三百余艘ヲ喪フ其第二軍ハ艦數六百艘ニシテ希臘諸島ヲ襲ヒ陸軍ハアルタヘル子ヌス及ビダチーヌ之ヲ指揮ス古代史家ノ傳フルコト諸說紛々一ナラス其最少ノ數ニ從フモ總員無慮十一萬人トス

(六) アゼンヌスノ兵之ヲマラゾンノ野ニ邀ヘ戦フ兵員迫ニ波斯ノ軍ヨリモ少シ正史ノ傳フル所三萬乃至四萬人ナリトス彼ノ有名ナルミル

チエードス自ラ之ニ將タリ地利人和相須テ一
撃之ヲ破ル波斯ノ軍走テ其戰艦ニ遁ル此役ヤ
波斯ノ兵死スルモノ六千三百人ニシテアゼン
スノ兵ハ僅ニ百九十二人ヲ亡フニ過キズ

(七) 此戰勝アリテヨリミルチエードスノ名望
愈高ク權勢比ナシ後チ幾クモナクパロース島
ヲ襲撃シテ利アラズ名聲隨テ地ニ墜ツ而シテ
其ノ國ニ歸ルヤ謀反ヲ以テ法ノ問フ所ト為リ
幸ニ死刑ヲ免ルハヲ得タリト雖、五十「タール
ント」愿大約五科銀ニ處セラル家貧ニシテ償

フ能ハス因テ獄ニ繋カレ竟ニ瘦死ス曩ニパロ
ース島ノ戰ニ於テ負フ所ノ重傷アルヲ以テナ
リ其子シモン代テ其科銀ヲ納ム

(八) 是時ニ當テアゼンスニ二派ノ政黨アリ一
ハ爵政ヲ保持シ一ハ民政ヲ主唱ス爵政黨ノ主
領ハアリスチツドスニシテ民政黨ノ主領ハセ
ミストクルスナリ共ニ政治ニ老ケ兵事ニ長ズ
(九) アリスチツドスハ人ト為リ廢直方正ナル
ヲ以テ義人ノ名アリセミストクルスノ計策ニ
罹リ十年ノ流刑ニ處セラル當時公衆ノ投票ヲ

以テ罪ヲ斷シ流ニ處スルノ法アリ之ヲ貝殼流オストラリス
 刑ト名ク其票ミナ貝殼ヲ用フ人民方ニ票ヲ投
 シテ其當否ヲ發言シ議未タ決セズ一士人アリ
 曾テ親クアリスチツドスヲ識ル者ニアラズ又
 一丁字ヲ書スルノ能ナキ者ナリ卒然其携フ所
 ノ貝殼ヲ示シ慙懃ニ其氏名ヲ記サシテ請フ
 アリスチツド曰ク汝何ノ故アツテ此需メアル
 カ余未ダ寸害ヲ汝ニ加ヘタルヲ知ラズト士人
 曰ク汝固ヨリ寸害ヲ余ニ加ヘタルトナシ但タ
 汝ヲシテ永ク義人ノ名ヲ受ケシムルニ堪ヘサ

ルハミトアリスチツドス莞爾トシテ一笑シ其
 貝殼ヲ把テ自ラ其名ヲ記シ從容トシテ謫所ニ
 之ク後チ幾モナク戰亂再ヒ起ルニ及デ赦サレ
 テ國ニ歸ル

(十) ダリウス己ニ殂シテヨリ數年ノ間戰亂跡
 ラ收メ昇平事ナレ波斯ノ幼主エキセルキスノ
 位ニ即クヤ誓テアゼンスヲ討テ希臘ヲ吞滅セ
 ント欲シ陰然之ガ整備ヲ為フ一四年千古未曾
 有ノ大軍ヲ徵スヘロドチウスノ記スル所ニ從
 ヘバ戰士ノ總負海陸軍ヲ合セテ二百萬人ノ上

ニ出ヅ其他從軍ノ雜貨商及ビ奴隸婦女ヲ算入
セバ全軍五百余萬ノ多キニ及ベリト云フ
(一十) 海軍ハ戰艦一千二百艘ニシテ其他運貨ノ
便ニ供スル小艇數千艘アリアゾスト大陸ノ間
ニ在ル地峽ヲ開鑿シテ戰艦ノ航程ヲ通シヘル
ロスポントノ海峽ヲ横斷シテ二條ノ浮橋ヲ架
シ以テ陸兵ヲ濟ラシム其長サ十余丁アリ
(二十) エキセルキス陣營ヲ高處ニ設ケ全軍一面
地ヲ蔽ヒ海ニ亘ルノ壯且ツ大ナルヲ瞰テ心竊
ニ揚々自得ス而シテ又獨リ自ラ反省シ人生能

ク百歳ヲ越ユル者數千人中一人アルナキヲ想
起シテ感慨措ク能ハズ潜然トシテ衣ヲ濕フス
ニ至レリ

(三十) 波斯ノ陸兵勇往直進アゼンズニ向フ將帥
セミストクルス軍略ニ富ミ力戰ニ長ス全軍ヲ
指揮シ堅ク守テ降ラズスパルタ及ビ其他ノ諸
州協力連合シテアゼンズニ應援シ防戰最ヒ努
ムト雖氏力及バズシテ竟ニ敵軍ニ降服スルモ
ノ二三州アリ
(四十) スパルタノ王レオニダス小兵ヲ以テセル

モピールヲ守ル其地テツサリトボシノ
間ニ在リ山ヲ負ヒ海ニ面シ僅ニ一綫ノ隘路ヲ
通シ地勢自ラ要害ヲ成スエキセルキス進テ此
處ニ至リ使ヲレオニダスニ遣シ降ヲ勸ムスバ
ルタノ兵簡然之ニ答テ曰ク來テ我地ヲ略取セ
ヨト波斯ノ兵之ヲ攻ムル二日間全軍大敗死傷
最モ多シ敵兵遂ニ山頂別ニ一經アルヲ知り虛
ニ乘シテ攻撃甚ダ急ナリ防戦力窮テ守ル能ハ
サルニ至レリ

(五十)

レオニダス勢ヲ察シテ預ノカノ及バザル

ヲ知り斷然意ヲ決ンテ邦國ノ大義ニ遵ヒ一步
ヲ退クコトナク身ヲ殺シテ國ニ報ヒント欲ス其
兵三百人之力為ニ感奮シ悍然直進シテ敵營ヲ
襲ヒ皆ナクニ觸レテ死ス生ヲ保ツ者唯二人ノ
ミ偶ソノ外ニ在ルヲ以テナリ後チ此地ニ石碑
ヲ建テシモニダス文ヲ撰ス其銘ニ曰ク嗚呼此
ハ是レラセドモン人殉國ノ處ナリ異郷ノ客ソ
レ之ヲラセドモンニ語ケヨト

(六十)

波斯ノ兵己ニセルモピールノ要害ヲ破リ

アツチカニ闖入シ火ヲ縱チ人ヲ斬リ兇暴劫掠

至ラザル所ナシアゼンスノ人民婦女子ヲ島嶼ニ移シテ其難ヲ避ケンメ戦艦ニ搭シテ都城ヲ去ル敵兵アゼンスニ入り焚掠ヲ恣ニス全城焦土トナル

(七十) 此時海戦ノ備己ニ整ヒ波斯ノ海軍ハ戦艦一千二百艘ニシテ希臘ノ海軍ハ艦數三百艘ナリセミストクルス及ビアリスチツドス之ガ提督タリ兩軍サラミスノ海峡ニ戦フ波斯ノ艦隊列整ハズシテ進退意ノ如クナル能ハズ全軍大敗死傷算ナシエキセルキス沿岸ノ高處ニ在

リ親ク其敗状ヲ瞰テ恐懼措ク能ハス一隊ノ小兵ヲ將テ匆々其國ニ遁ル

(八十) エキセルキスノ其國ニ遁ルヤ守兵三十萬ヲ希臘ニ駐メマルドニウスヲシテ之ヲ督センム夏ノ來ルヲ待テ遂ニ其志ヲ果サント欲スレバナリ夏己ニ至ル希臘ノ兵應スル者多シアリスチツドスボーサニアスノ二將アゼンス及ビラセドモンノ兵十一萬ヲ聯結シテ之ヲプラテアニ破リ屠戮殘忍ヲ極ムマラドニウス及ビ其兵士多ク之ニ死ス

(九十) 此日ラセドモンノ人レオチチツドスアゼ
ニスノ人エキサシツプス希臘ノ水兵ヲ率テ
波斯ノ海軍ヲエプリユスノ近傍マイカルノ岬
角ニ破ル波斯ノ軍是ニ至テ竟ニ全敗スエキセ
ルキス百策茲ニ盡キテ衆望地ニ墜チ幾氏ナク
シテ弒セラル其子アルタキセルキスロンヂマ
ニウス位ヲ繼グ

(十二) 波斯ノ兵境ヲ侵シテ其戰未タ全ク局ヲ結
ハサルニ希臘ノ兵反テ波斯ヲ撃ツ是時ニ當テ
イオニア已ニ波斯ノ機輒ヲ脱セルヲ以テ先ツ

其地ノ守備ヲ嚴ニシ次チポーサンアススバル
タノ兵ヲ將ヒアリスチツドス及ビシモンア
ゼンスノ兵ヲ督シ共ニシプリウス島ヲ略シ進
テビザンチウムノ都城ヲ拔キ無量ノ賍物ヲ收
メテ踴躍凱旋ス

(十一) ポーサンアス武功衆ニ超ユルヲ以テ大ニ
威權ヲ擅ニシ勢焰日ニ熾ナリ然リ而シテ谿壑
ノ念猶ホ禁スル能ハズ國ヲ賣テ自ラ利セント
欲シ密書ヲエキセルキスニ寄セラテ曰ク陛下モ
シ皇女ヲ予ニ賜テ婚ヲ結ブノ榮ヲ得セシメ

粉骨碎身必ス此國ヲ舉テ陛下ノ所轄タラシ
メント而シテ事未ダ成ラズ早ク己ニ有司ノ覺
知スル所ト為リ逃レテミ子ルバノ神廟ニ入り
其靈聖ニ依テ身ヲ全フセント欲シ遂ニ果サス
絞刑ニ處セララル

(ニ廿) アゼンスノ英將セミストクルスポーサニ

アスノ叛ニ與ミシ連坐シテ其國ヲ放タレ去テ
亞細亞ニ至リ書ヲ波斯王アルタキセルキスニ
上テ曰ク小人セミストクルス謹テ白ス曩ニ先
王ノ弊邦ニ臨ムヤ一擊之ヲ退ケ以テ貴廷ニ禍

スル至ラサル所ナシ是レ職任ハ止ム可カラザ
ルモノアルヲ以テナリ然リト雖氏小人幸ニシ
テ其生命ヲ全フセリ先王ノ轅ヲ國ニ歸スニ方
リ途ニ其危キヲ見テ敢テ之ヲ厄ニ窘ムルニ忍
ヒス先王ヲ適レシム後功ノ以テ前罪ヲ償フニ
足ル可キヲ信スト遂ニアルタキセルキスノ優
待ヲ受ケ長ク華侈ヲ極メテ此地ニ客死ス嗚呼
ゼミストクルス文功武勲一時其右ニ出ル者ナ
シ若シ此人ヲシテ其英才ニ兼ヌルニ挺然撓マ
ス可カラサルノ節義ヲ以テスルヲアラシメバ

其聲譽ハ更ニ鳴々トシテ幾層ノ光輝ヲ加ヘシ
ナラン

(三廿) ヤミストクルスノ其國ヲ放タラル、ヤア
リスチツドスアセンスノ政務ヲ總理スアリス
チツドス已ニ死スルノ後チ大權全クシモンノ
掌中ニ歸スシモンハ希臘開國以來政績武功卓
然無比ノ名アルミルチエードスノ子ナリ

(四廿) シモン已ニ文武ノ大權ヲ掌握シ戰必ス克
タサルナク曾テ小亞細亞ノエウリメドン河傍
ニ於テ海鬪陸戰波斯ノ兵ヲ破ル一日二回ニ及

ブリ

(五廿) 後チアセンスニ一派ノ政黨起リ其勢力頗
ル威ナリシモンノ政略ヲ攻撃シテ止マズ竟ニ
シモンノ罪ヲ羅織シ之ヲ國外ニ放逐スルニ至
レリパリツクルスナル者アリ貴族ノ子ニシテ
才辯兼備ノ少年ナリシモンニ代テ大權ヲ掌握
ス

(六廿) シモン謫所ニ在ル五年赦サレテ國ニ歸リ
陸軍提督ノ職ニ復シ波斯ノ兵ヲ破ルシブリウ
スニ至リシチウムヲ圍ミ重傷ヲ負テ没セリ

(七廿) 希臘ノ波斯ト兵ヲ交ユル前後五十余年茲ニ至テ事始メテ定マル蓋シアルタキセルキス海鬪陸戰其軍連敗振ハザルヲ見テ遂ニ其志ヲ逞スル能ハサルヲ悟リ約ヲ結テ和ヲ講センテヲ請フナリ其約二條一ニ曰ク凡ソ希臘殖民ハ小亞細亞ニ在ル者ヲシテ其自由ヲ得セシム可シニニ曰ク波斯ハ戰艦希臘ノ海中ニ入ルヲ禁ス是ナリ

(八廿) シモン已ニ死スルノ後チ其舅兄ソウシデツドス衆望ヲ收ノテ權勢ヲ握ラント欲シペリ

ツクルスト雌雄ヲ争フ舌戰數回ソウシデツドス終ニ論破セラレテ其國ヲ放タル是ニ於テペリツクルス獨リ主權ヲ專ラニシ易筭ニ至ルマデ二十余年ノ間幾ド之ヲ犯ス者ナシ

(九廿) ペリツクルスノアゼンヌヲ治ムルヤ擅ニ都城ヲ修飾シ峻宇雕牆人ヲシテ駭觀セシム且ツ大ニ學術技藝ヲ獎勵シ盛ニ遊戯節宴ヲ行フ故ニ後世此時ヲ以テ國內華奢ヲ極ムルノ紀年トス國財之ガ為ニ蕩盡シ民俗隨テ敗壞ス

(十三) 希臘ノ兵力強大ニシテ其聲譽ヲ博セシハ

波斯ト兵ヲ交ユルノ時ヲ以テ最トス而シテ其國隆盛ヲ極メタルハ職トシテ其協同一致ノ然ラシムルニ由ル然レ氏兵亂已ニ平クノ後チ人心漸ク離乖シテ國內ノ諸州復タ互ニ相覬覦シアセンスニ於テハ府城ヲ修築シテ四圍ノ壘壁ヲ堅フススパルタノ人民之ヲ見テ猜忌ノ心止ム能ハズ大ニ其非ヲ鳴ラススパルタ地大ニ震ヒ全都傾覆死者二萬余人奴隸蜂起シ州内大ニ亂ルアゼンスノ人民傍觀喜色アリ

(一) 波斯ノ希臘ヲ侵スヤ皮相ヨリ之ヲ見レバ

アゼンスノ人民其災害ヲ被ル最モ甚キモノ、如ク然リ蓋シ城市灰燼ニ属シ國土大ニ荒廢スルヲ以テナリ然レ氏之ニ由テ其實益ヲ收ムルモノ勝テ言フ可カラス其海戰ニ長スルト豪將ミルチエードスセミストクルスアリスチツドス及ビンモンノ武略屹然衆ニ越ルトヲ以テ希臘國中政權武力共ニアゼンスノ右ニ出ルモノナク遂ニラセドモンノ勢威ヲ壓スル至レリ

(三) 波斯ト兵ヲ交ユルノ後チ希臘ノ治權分レテ二大共治國ト為リアゼンスラセドモン相對

時レテ互ニ其權勢ヲ争フモノ數年アゼンスノ
人民ハ海鬪ニ長シテ民政ヲ主唱シラセドモン
ノ人民ハ陸戰ニ巧ニシテ爵政ヲ保持ス是時ニ
當テ權勢微弱ノ諸州相競テアゼンスニアラサ
レバ必ススパルタニ合從シ以テ其保安ヲ計ル
ニ至レリ其政論ノ如キ亦自ラ分レテ二派ト為
リ民政ヲ唱フル者ハアゼンスニ依リ爵政ヲ是
トスル者ハスパルタニ屬ス

(三) 希臘ノ人民尚武愛國ノ志氣是ヨリシテ漸
ク衰フ蓋シ其ノ亞細亞地方ト交通ヲ開クニ及

テ隨テ續々東方ノ財貨ヲ輸入シ舉國ニナ其態
度ニ習ヒ華奢ニ流ル其中アゼンスノ人民ハ均
ク其風潮ニ從フモ猶ホ未ダ雅致ヲ愛シ才藝ヲ
研クノ氣風ヲ失ハサルヲ以テ美術ノ道漸ク開
ケ遂ニペリツクルスノ時代ニ於テ其精巧ヲ極
メ其聲譽ヲ博スルニ至レリ

第八章 紀元前四百三十一年ヨリ三
百六十年ニ至ル

(一) ペリツクルスノ治ヲ施スヤ其末年ニ及テ
アゼンススパルタノ間交戦止マサルモノ數年

世之ヲ稱シテパロポン子シウスノ後ト為ス希臘開國以來内亂ノ最大著明ナルモノナリ
(二) 此戰ノ激烈ナル全國為ニ動ク是時ヤ實ニ碩儒ソクラテス在世ノ日ナリ學藝大ニ歩ヲ進メ風俗日ニ美ヲ致シ自ラ史編特筆ノ一紀年ヲ成スモ未ダ全ク殺伐ノ氣風ヲ脱却スル能ハズ各州互ニ黨心異圖ヲ挾ミ天理人道蕩然地ヲ拂ヒ戰鬪禍害踵ヲ接シテ止ムナシ
(三) コルシラノ居民コリンスヲ襲フアゼンスノ兵之ガ應援タリコリンスノ人民此舉ヲ以テ

パロポン子シウスノ盟約ヲ破ルモノト為シ忽チニシテ是非ヲ干戈ニ訴フ
(四) スハルタノ兵諸軍ニ率先シテアゼンスニ向フパロポン子シウスノ諸州及ビ北部希臘ノ中メガリアボーチアロクリスホシス等ノ諸州ミナ之ニ應ズ唯ダアルゴースノ一州局外ニ中立ス而シテアゼンスハ孤立援ナク僅ニテツサリーアカルナニア及ビ二三島嶼ノ之ニ連合スルアルノミパロポン子シウスノ兵總負六萬アリスバルタ王アルチダミウス親ラ之ヲ督スア

ゼンスノ陸軍ハ僅ニ三萬二千人ニ過キスト雖
凡其海軍ハ迥ニスバルタノ上ニ出テタリト云
フ

(五) ラセドモンノ兵アツチカヲ襲撃シ進テア
ゼンスヲ圍ム之ヲ其第一年トスアゼンスノ城
市時疫大ニ行ハル之ヲ其第二年トス斃ル、者
甚ダ多シパリツクルスマタ疫ニ感ジ其第三年
ニ至テ鬼籍ニ入ル而シテ疫勢益々猖獗ヲ極ム
ルモ以テ此殺氣ヲ挫折スルニ足ラズ一勝一敗
激戰數年死傷相當ル

(六) パリツクルスノ卒スルヤ民政黨ノ首領ク
シオンナルモノ一時アゼンス公會ノ長ト為リ
政務ヲ統理ススパルタノ陸軍都督ブラシダ
ストアンピポリースニ戰テ死シブラシダース
マタ重傷ヲ負テ死ス爵政黨ノ首領ニシアス常
ニ平和ヲ以テ主義ト為スクレオン卒スルノ後
アゼンススパルタノ間ニ周旋シテ遂ニ和ヲ講
セシム

(七) 然リト雖凡アルチビアードスナル者アゼ
ンスノ政權ヲ執ルニ及テ戰亂マタ起ルアルチ

ビアードスハ武略辯舌共ニ絶倫ノ能アルモ確
然一定ノ持論ナキカ為ニ竟ニ身ヲ誤リ國ヲ傾
クルニ至レリ

(八) アルチビアードス及ビニシアス兵ヲ將テ
レシリ島ヲ征スアルチビアードスハ國事ヲ
誤ルノ罪ヲ以テ牽田セラレニシアスハ戰全ク
敗レテ之ニ死ス後チアルチビアードス再ビア
ゼンスノ陸軍都督ニ復シ屢戰功アリト雖氏終
ニ衆望ヲ失シテ其國ヲ逐ハレアゼンス陸軍ノ
全權コノンニ歸ス

(九) ラセドモンノ豪將ライサンドルブランダ
ースノ後ヲ承ケテ陸軍都督ノ職ニ就キアゼン
スノ艦隊ヲヘルレスホントノエゴスホタモ
スニ破リ之ヲシテ復タ為ス可キナキニ至ラン
メ海陸并ビ進テアゼンスノ城下ニ迫リ長圍環
攻持久ノ計ヲ為シ以テ敵ノ自ラ潰ルヲ待ツ
(十) アゼンスノ人民糧食已ニ盡キテ其守リ難
キヲ知り伏求和ヲ講シ以テ生命ヲ全フセント
欲ススパルタ人約ヲ立テ以テ請フ所ヲ諾ス其
條款ニ曰ク港ヲ毀テ壘ヲ壞リ其戰艦ハ數ヲ減

シテ十二艘ト爲シ他日モシ兵ヲ動かスハ事アルモラセトモンハ將帥ヲシテ必ス之ヲ督セシメザル可ラズト是ニ至テ所謂ルペロホン子シウスノ役終ニ其局ヲ結ビアゼンスノ勢力全ク地ニ墜キラセドモンノ權勢希臘全國ヲ壓ス

(一十) アゼンス已ニ降ルノ後チライサンドル民政ヲ廢シテ寡人政體ヲ立テ三十人ノ有司ヲシテ其權ヲ擅ラニセシム其刻薄極ナキヲ以テ三十虐官ノ名アリ僅々八月間ニシテ暴政ノ下ニ命ヲ亡フモノ一千五百人ニ至ル愛國憂世ノ士

黨ヲ結デ起リスラシボルスナル者之ガ首領タリ終ニ其虐官ヲ廢黜シテ民政ヲ復ス

(二十) アゼンスニ於テハ其進度開明ノ上流ニ達シタル時代ト雖モ純正ノ民政ハ以テ暴政ヲ抑制スルニ足ラズ蓋シアゼンスノ人民稟性輕躁ニシテ一定ノ思想ナク其爲ス所往々放肆不法ニシテ凶惡殘忍ニ涉ルモノ多キヲ以テナリ

(三十) 一ハ以テアゼンスノ榮譽ト爲リ一ハ以テ其恥辱ト爲リタルモノハソクラテスノ名ナリ蓋シソクラテスハ聲名藉甚タル哲學士ナリ其

道德上ノ所見高遠ニシテ異教社會仰テ泰斗ト
為ス是ニ於テ國人隨テ宗教ヲ奉スルモノ少ク
シテ人道ノ真理ヲ究メントスル者漸ク多シ然
ルニアヤセンスノ公會ハ之ヲ以テ後進ヲ誤マル
ト為シ其罪ヲ構成シテ毒死ノ刑ニ處ス
(四十) ソクラテスノ獄ニ下ルヤ居ルヲ三十余日
其間舉止謹敎ニシテ遁走ノ機會アルモ泰然ト
シテ動カズ朋友訪シ來レバ談必ス道德學ノ蘊
奧ニ及ビ就中靈魂不死ノ理ヲ論スルヲ樂ム死
期已ニ至ルニ及デ手カラ毒盃ヲ傾ケ從容トシ

テ瞑目ス

(五十) ソクラテスノ哲學ハ心學史中ノ一大紀年
ナリ然レモ其學說ヲ天下ニ傳播スル之ヲ書ニ
筆シタルニ非ス僅ニ口頭相傳ヘタルニ過キス
而シテ綿々絶ヘズ以テ其學統ト性行ヲ今日ニ
傳フルモノハ實ニ高第ブラト及ビエキセノホ
シノカナリトス當時學說紛々或ハ上帝ノ存在
ヲ排斥シ或ハ有物無神ノ說ヲ信シ或ハ百事ヲ
把テ疑惑ノ一點ニ歸スソクラテス是間ニ介立
シ俛焉止マス心智ノ力ヲ盡シテ其迷溺ヲ駁シ

且ツ當時ノ物理學ヲ排シテ之ヲ斥ケ先哲述ブ
ル所ノ心理說ノ如キモ亦夕之ヲ喜バス人ヲ教
フルニ專ラ道德ノ學即チ情欲ヲ制シ品行ヲ慎
ミ人道ノ要旨ヲ講明スルノ道ヲ以テス故ニ後
世ソクラテスヲ以テ哲學ヲ天上ヨリ地上ニ抉
下セル者ト為ス蓋シ其創意ニ係ルヲ謂フナリ
(六十一) ペロポニチレウスノ役ソノ局ヲ結ブヤ當
時波斯王ダリウス殞シ其子アルタキセルキス
位ヲ繼ク弟シリウス之ヲ廢シテ自ラ代ラント
欲シ兵負一萬ヲ希臘ニ傭ヒ募リ巴比倫ノ近傍

クナツキサニ戰フシリウスノ軍敗レテ殺サレ
都督之ニ死スエキセノホン殘兵ヲ率テ退キ巴
比倫ヨリ黑海ノ濱ニ至ル其ノ敵地ヲ經過スル
モノ一千六百余里險ヲ越ヘ難ヲ冒シ辛苦云フ
可カラサルモノアリ
(七十) 史上之ヲ名ケテ一萬兵ノ退軍ト為シエキ
セノホン華麗婉曲ノ筆ヲ揮テ自ラ其事ヲ記ス
實ニ兵事沿革史中ノ著跡ナリ然レモエキセノ
ホンハソクラテスノ門弟ニシテ其傳ヲ記シ其
功ヲ顯ハスニ當リテ義心ヲ去テ射利ヲ旨トシ

猶ホ傭兵ノ金錢ノ爲ニ勞役ニ服スルガ如キ行
事アルハ誠ニエキセノホン其人ノ爲ニ惜ム所
ナリ

(八十) 希臘所屬ノ都城ニシテ亞細亞地方ニ在ル
モノレリウスニ應スルヲ以テ波斯ノ軍之ヲ攻
撃スル甚タ急ナリスパルタ王アゼシロウス兵
ヲ將テ進テ其地ヲ守リ終ニ干戈ヲ波斯ト交ユ
ルニ至ル波斯王私ニ賄賂ヲ贈リテアゼンスセ
ーブスコリンス等恒ニラセドモンノ權勢ヲ猜
忌スル者ノ人心ヲ籠絡シ締盟連衡以テ彼レニ

ニ當タランメント欲ス是ニ於テアゼシロウス
止ムトヲ得ス兵ヲ收メテ其國ニ歸リ以テ自ラ
守ルコロ子アニ戰テ大ニ締盟諸州ノ兵ヲ破ル
後チ幾モナクコノニアゼンスノ海軍ヲ將テク
ニドースノ近海ニ至ルスパルタノ艦隊戰テ利
アラス

(九十) 戰亂相踵ギ世變定リナキモノ久シ彼我ノ
將卒ミナ兵事ニ倦ミ和約遂ニ成ルラセドセン
ノ人アインタルシダス其商議ニ與テ大ニカアル
ヲ以テ之ヲインタルシダスノ和約ト云フ其條

疑ニ曰ク凡ソ希臘所屬ノ都城ニシテ亞細亞地
方ニ在ルモノハ盡ク波斯ノ所轄ニ歸ス可シ曰
クレムノースサイロース及ビイェンブロースハ
三島ハ猶ホアゼンスノ所轄ニ屬スルモ餘ハ凡
テ完全ハ獨立ヲ得セシム可シ

(十二) アゼンス及ビスパルタノ威漸ク衰凋ニ向
フノ時ニ當リセーグス俄ニ奮興シテ其勢國內
諸州ヲ壓ススパルタノ人民之ヲ見テ猜忌己ム
能ハズ其内亂アルニ乘シテ卒然外城ヲ取ルセ
ーグスノ兵再ビ之ヲ田取シ國人パロピタス及

ビエパミノングスノカニ因テ遂ニ其獨立ヲ全
フス此二士ハ其才高ク功偉ニシテ友誼ノ信
ナル交情ノ厚キ當時人ミナ仰敬シテ其名ヲ知
ラサル者ナシ

(十三) セーグススパルタ再ビ干戈ヲ交ユエパミ
ノングス及ビパロピダス陸兵六千ヲ將テレオ
クトラニ戰テ大ニ敵兵ヲ破ルセーグスノ兵死
スル者僅ニ三百人スパルタノ兵命ヲ隕ス者四
千人其王クレオンブロチユスマタ之ニ死ス此
役ヤスパルタ大軍ヲ以テ寡兵ノ敗ル所ト為リ

落膽驚愕餘衆逃竄ス史編傳テ以テ千古人奇事ト爲ス

(二廿) エパミノンダスセーブスノ兵ヲ將ヒ踴躍シテラセドモンノ境ニ入ル希臘ノ諸州應スル者多シ至ル處火ヲ縱チ人ヲ斬リ闔國ヲ蹂躪ス遂ニ長驅シテ城下ニ迫ルラセドモンハ昇平日久ク六百年來敵兵ノ侵入ニ遇ハズ居民常ニ自ラ託テ曰クスバルタノ婦人ニシテ未ダ敵營ハ烟ヲ見タル者アラズト是ニ至テ其言終ニ画餅ニ歸ス

(三廿) セーブスノ將帥エパミノンダス己ニスバルタニ捷チ揚々トシテ其國ニ凱旋ス後チ幾クモナクアゼシロウス親ララセドモンノ兵ヲ將テ戰ヲ挑ムアゼンスノ兵之ヲ援クエパミノンダス復タ之ヲマチ子アニ破ル然レモ重傷ヲ負テ死ス

(四廿) エパミノンダスハ希臘ノ英傑ナリ其ノ哲學ヲ修メ政治ヲ施シ武事ヲ督シ民職ヲ盡スヤ共ニ絶世ノ績アリ其國ヲシテ兵力強大天下比ナキニ至ラシメタルモノ實ニ其力ナリトスエ

パミノンダス死スセーブス復タ振ハス

(五廿) マンチ子アノ戰已ニ其局ヲ結ブヤ希臘諸
州互ニ和ヲ講シ以テ諸城ノ自立ヲ鞏固ナラン
ム後チ幾モナクアゼシロウス兵ヲ將テ埃及ニ
至リ國王タクオースヲ援ケント欲ス當時子クタ
子ブスナル者アリ埃及王ノ位ヲ僭奪セントスル
ノ非舉アルヲ以テナリ埃及ノ人民夙ニアゼシ
ロウスノ威名ヲ稔聞ス其至ルヲ聞キ出テ看ル
者堵ノ如シアゼシロウス上陸シテ海汀ニ坐ス
痿躄矮陋ノ一野翁ノミ衆一瞥シテ大ニ失望ス

色アリ而シテタクオースノ之ヲ待ツ亦甚ダ渥カ
ラズアゼシロウス怒テタクオースニ絶チ却テ子
クタ子ブスニ應シテ遂ニ其非望ヲ達セシム既
ニシテ兵ヲ收ノ船ニ搭シテスパルタニ歸ル途
ニ病テ殂ス政績武功共ニ著ル

第九章 紀元前三百六十年ヨリ三百

二十四年ニ至ル

(一) アゼシロースノ殂落ヨリ馬基頓ノヒリツ
グ世ニ出ツルニ至ルマデ希臘史上事ノ記ス可
キモノナシ當時邦内諸州萎靡振ハス人民復タ

昔日ノ義勇ナシ

(二) 是時ニ當テアゼンスハ文藝大ニ其歩ヲ進メ獨リ其隆盛ヲ極ムト雖凡驕奢淫逸風ヲ成シ復タ收ム可ラザルニ至ルスパルタハパロポン子レウスノ屬部盡ク自立シテ其勢力之ガ為ニ挫ケ國人黄金ヲ用フルニ至テ民心之ガ為ニ敗壞シ其純樸酷薄ノ風蕩然地ヲ拂テ復タ舊時ノ盛大ヲ見ズヒリツプ熟ラ此形勢ヲ察シ竊ニ希臘ヲ併呑スルノ志アリ

(三) 馬基頓ハ一ニ馬基德尼亞ト云フ其國脈四

百余年ヲ繼絡シ其間隆興ノ跡絶テ見ル可キモノナク又嘗テ希臘ノ同盟ニ入り其公會ニ列シテ發議スルノ權ナシ居民其起源ヲ希臘人ト同フシ常ニ以テ自ラ之ヲ誇ル然レ凡交通疎濶ニシテ本國ニ對スルノ道ヲ盡サス故ニ希臘之ヲ待ツニ化外ノ蕃夷ヲ以テス

(四) 馬基頓帝國ハ上古大國ノ第三位ニ居リヒリツプノ開創スル所ニシテ其子アレキサンドルノ功ニ成ル或ハ之ヲ希臘帝國ト稱ス蓋シ希臘ハ汎ク之ヲ言ヘバ馬基德尼亞ヲ包含シ且ツ

ヒリツプ及ビアレキサンドルノ所轄ニ属シタルヲ以テナリ

(五) ヒリツプ年甫ノテ十歳セーブスニ質ト為リ業ヲエパミノダスノ門ニ受ケ深ク希臘ノ學風ニ薰染ス二十四歳ニシテ帝位ニ上リ武略政績共ニ著ハレ權謀辨舌マタ衆ニ卓絶ス夙ニ希臘諸州ヲ征復スルノ志ヲ懷キ陰ニ其内訌ヲ誘發シ恩銀ヲ與ヘテ每州二三ノ間牒ヲ置キカヲ我ニ盡サシム

(六) ポンスノ人民シルレアン曠原ト名クル膏

地ヲ耕耘スル年已ニ久シ其地往昔デルヒノ神アポルロノ廟ニ属シ人ノ之ヲ用フルヲ許サスホシス今之ヲ用ヒテ耕地ト為スヲ以テ希臘公會之ヲ禁止シ犯ス者ハ巨額ノ科銀ニ處スルノ令ヲ發ス是ニ於テ内亂忽チ起リ激戰跡ヲ絶タサルモノ十年ニ及マリ之ヲ聖戰ト名クセーブスロクリーステッサリー等ノ諸州聯合同盟シテポンスヲ伐ツアゼンスパルタ等ノ諸州ホシスヲ援ク

(七) ヒリツプ已ニオリンシウスノ府城ヲ拔キ

内擾ニ乗シテ罅隙ヲ希臘諸州ト開カント欲シ
自ラ任シテ内亂ノ曲直ヲ斷センコトヲ發言ス既
ニシテ撰ハレテ希臘公會ノ議員ニ列シ終ニ會
長ト為ルアゼンスノ人民ヒリツプノ異圖アル
ヲ疑ヒ其當撰ヲ喜ハズ之ト戰ハント欲スホシ
オンズ丁寧反覆之ヲ調停スト雖氏聽カスデモ
スゼンスノ雄辯ニ鼓舞セラレ奮テ戈ヲヒリツ
プト交ヘ竟ニ自ラ敗滅ヲ速クニ至レリ
(八) 後マタ第二ノ聖戰起リヒリツプヲシテ再
ビ希臘ニ來リテ事ニ與ラシム蓋シロクリース

人ノアムビツサニ在ル者デルビノ聖地ヲ蠶食
シ希臘公會ノ發令ニ從ハズ是ニ於テ希臘公會
ヒリツプニ托スルニ鎮壓ノ事ヲ以スヒリツプ
執力日ニ加ハルアゼンス及ビセーブスノ人民
デモスゼンスノ鼓舞スル所ト爲リ扼腕切齒力
ヲ協セテ之ニ抗セントス兩軍戈ヲチエロ子ア
スニ交ヘ激戰一次ニシテヒリツプ大ニ捷チ遂
ニ希臘全國ヲ掌握ス
(九) ヒリツプノ之ヲ征服スルヤ希臘諸州ヲ待
ツニ降民ヲ以テスルノ得策ニアラサルヲ知リ

其分立自治舊ニ依ルヲ許シ親ラ大政ヲ統轄ス
(十) ヒリツプ次テ又波斯ヲ征服セント欲シ各
州ノ代議士ヲ徵集シテ會議ヲ開キ其可否ヲ諮
フ衆議之ヲ可トス是ニ於テ國內諸州ノ兵ヲ合
セヒリツプ親ラ元帥ト爲リ將ニ途ニ上ラント
スヒリツプ會其女ノ婚儀ヲ行フ侍衛兵ノ隊長
刺シテ之ヲ弑ス此報聞ノアゼンスニ達スルヤ
舉國歡抃相賀ス蓋シ既ニ望ヲ絶チタルノ自由
ヲ恢復スルノ機ヲ得タリト爲スナリ
(十一) アレキサントル〔原〕後チ大帝ト稱スハヒリツプノ子

ナリ二十歳ニシテ馬基頓ノ王位ヲ繼ク幼ニシ
テ業ヲアリストトトルノ門ニ受クアリスト
トレハ當時絶倫ノ碩儒ナリアレキサンドル天
稟聰明夙ニ學ヲ好ム仁勇兼子備ハリテ志望絶
大ナリ
(二十) デモスヤンス畢生ノ辨ヲ盡シテ國人ヲ鼓
舞シ協心戮力以テ劫主アレキサンドルニ抗セ
レノント欲スアレキサンドル己ニ馬基頓北方
ノ蕃民ヲ征服シ總軍大舉シテ希臘ヲ攻ムセ
グスノ人民敵スル能ハス一敗地ニ塗レ死傷算

ナシ金都蕩盡居民賣レテ奴隷ト為ルモノ三萬人諸州恐懼措ク所ヲ知ラズ遂ニアレキサンドルヲ奉シテ希臘ノ盟主ト為ス

(三十) 既ニシテアレキサンドル希臘諸州ノ代議士ヲコリンスニ召集シ更ニ波斯ヲ代ツノ可否ヲ諮フ當時ダリウスゴドマニウス波斯ヲ沼ム衆議終ニ之ヲ可トシアレキサンドルヲ推シテ元帥ト為ス猶ホ曩者ヒリツプノ此任ニ當ルガ如シ從軍ノ將士ハ概子ヒリツプニ從テ戰功アル者ニシテパルメニオ等ナリ

(四十) アレキサンドル歩兵三萬騎兵五千ヲ將テヘルロスポントノ海峡ヲ濟ル軍資僅ニ七十(夕一レント)糧食マタ一月ヲ支フルニ過ギス蓋シ之ヲ易トスルナリアイリウム即チトロイヲ過キ嘗テトロイノ役ニ戰没シタル諸雄將ノ墓ヲ祭ル且ツアーチルレスヲ評シテ曰クス人ヤ生時ハトロキユルスアリテ之ガ益友タリホーメルアリテ其徳ヲ讚シタリ天下至幸ハ人ト謂ハ可キハミト

(五十) 波斯西部ノ諸州歩兵十萬騎兵二萬ヲ發シ

之レヲ格拉ニキユルスノ河岸ニ邀ヘ戰テ大ニ
敗ルブローターチノ記スル所ニ從ヘバ波斯ノ
兵死スル者二萬人馬基頓ノ軍僅ニ三十四人ヲ
喪フニ過キス是役ヤ波斯ノ士官二人鐵鉞ヲ揮
テアレキサンドルニ迫リ將ニ其頭上ヲ劈破セ
ントスクリチユース馳セ至リ之ヲ救フ
(六十) アレキサンドル戰捷ノ勢ニ乘レテサルデア
スノ府城ヲ拔キ貨財ヲ搶掠シ進テミレチユ
スハリカルナレユス等ノ要地ヲ略取ス
(七十) 翌春ニ至リアレキサンドル再ビ兵ヲ起シ

大ニイッジュースニ戰フ波斯ノ兵六十萬可リ
國王親ラ之ガ元帥タリ又大ニ敗ル死者十一萬
ト稱ス馬基頓ノ軍命ヲ殞ス者僅ニ四百五十人
此役ヤ戈ヲ山間ノ隘路ニ交エルヲ以テ波斯ノ
軍大ナリト雖氏盡ク出テ、接戰スル能ハズ故
ニ敗ル

(八十) ダリウスノ母后王后及ビ女子二人擒ニ就ク
アレキサンドル之ヲ待スル懇到ナリダリウス
之ヲ聞キ使ヲ遣シ一萬(原)ターレント(大約)二百
ノ金幣ヲ損テ俘囚ノ身ヲ贖ヒ和親ノ約ヲ結ビ

其女ヲアレキサンドルニ妻ハシヨウハレツ河
ト希臘群島ノ間ニ在ル所ノ國土ヲ割與シテ之
ガ粧奩ニ充テントヲ請フ

(九十) アレキサンドル諸將ヲ會シテ波斯ノ請ヲ
諾スルノ可否ヲ諮フパルメニオ曰ク若シ臣ヲ
シテアレキサンドルタラシメバ臣ハ必ス彼ガ
請フ所ヲ諾センアレキサンドル之ニ答テ曰ク
朕ヲシテバルメニオタラシメバ朕モ亦然ラン
ハミト既ニシテダリウスニ對テ曰ク古來波斯
王歴世攻伐ヲ事トシ無辜ノ國ヲ侵ス少シトセ

ス朕今為ニ其仇ヲ報シ冤ヲ伸ハサント欲シ兵

ヲ將テ茲ニ亞細亞ニ入ル汝ダリウス親ラ來テ
俘囚ノ身ヲ贖ハンコヲ請ハ朕欣然之ヲ縱タ
シ若シ然ラズシテ敢テ倔强ヲ逞フシ朕が言フ
所ニ從ハズンバ又將ニ旗鼓ノ間ニ相見ンハシ

ト (十二) アレキサンドル兵ヲ轉シテマイルニ向フ

都門ニ至リ將ニハロキユルスノ神廟ニ詣リ牲
ヲ供シ祭ヲ行ハントス居民之ヲ拒ムアレキサ
ントル怒髮冠ヲ衝キ環攻七月遂ニ之ヲ拔ク殘

牽至ラサルナレ居民或ハ斷頭場上不歸ノ鬼ト
化レ或ハ賣ラレテ奴隸ト為ルモノ勝テ數フ可
ラズ十字架上ニ磔殺セララル、者マタ二千余人
ニ下ラズト云フ

(一廿) アレキサンドルガガノ府城ヲ攻ム城兵堅
ク守テ降ラズ防戰甚ダカムアレキサンドル遂
ニ之ヲ拔キ居民一萬人ヲ賣テ奴隸ト為レ敵將
ベチスヲ捕ヘ車ニ繫テ之ヲ猛殺ス

(二廿) アレキサンドル更ニ其進路ヲ轉シテ埃及
ニ向フ當時埃及ハ波斯ノ所轄ニ属ス國民敢テ

抗セズ輒テ降ル時ニ惡疫盛ニ行ハレ熱頗ル猖
獗ナリアレキサンドル泰然之ヲ意トセス兵ヲ
將テライビアノ沙漠ヲ過キジヨビトルアマモ
ンノ神廟ニ詣リ神子ノ尊号ヲ受ケ欣然得意ア
リ其埃及ニ在ルヤ府城ヲ建テ之ヲアレキサン
トリアト名ケ以テ偉業ヲ無窮ニ傳ノアレキサ
ンドリアハ後チ下部埃及ノ首府ニシテアトレ
ミー統ノ帝京ト為リ通商繁盛數世ノ久シキニ
及ブ

(三廿) 既ニシテアレキサンドル兵ヲ收メ國ニ歸

ル是ニ於テダリウス再ビ使ヲ遣シテ其意ヲ告
テ曰クヨウハレツ以西ハ地ヲ舉テ之ヲ割與セ
ンアレキサンドル傲然之ニ答テ曰ク天ニ二日
ナク地ニ二王ヲ容レズト

(四世) アレキサンドル兵五萬ヲ將テヨウハレツ
河ヲ濟リダリウスト戰フダリウスノ軍七十餘
萬ト稱ス激戰一回波斯ノ兵大ニ敗ル死者三十
萬アレキサンドルノ兵僅ニ五百人ヲ喪フ其地
實ハゴীগメラノ村傍ニ在リト雖氏世之ヲア
ルベラノ戰ト名ク蓋シアルベラ府ハ稍戰地ニ

懸隔スト雖氏其ノ著名ナルヲ以テ之ヲ名ケタ
ルナリ

(五世) 此役ヤ實ニ波斯國安危ノ岐ル、所ニシテ
史上自ラ一新紀年ヲ成ス後世歐州ノ亞細亞ヲ
抑制スルモノ蓋シ此時ニ始マルダリウス先ツ
メデアニ走リ次テパクトリアニ至ル州牧ベツ
シウス敵ニ通シテ逆ヲ謀リ之ヲ弑ス後チ幾モ
ナク波斯全國竟ニアレキサンドルノ版圖ニ歸
ス

(六世) アレキサンドル既ニ波斯ヲ滅スト雖モ猶

未タ飽クヲ知ラス遂ニ印度ニ入り大ニ戰テ國
王ホリウスヲ破ル將ニ進テ東海ノ濱ニ事アラ
ントス時ニ軍士已ニ戰ニ倦ミ終ニ其勞役ヲ息
ルノ期ナキヲ見テ復タ東スルヲ欲セス切ニ國
ニ歸ランヲ請フ

(七世) アレキサンドル遂ニ其制止ス可カラサル
ヲ知リ轅ヲ還シテインヂウス河ニ至リ子アル
チユースヲシテ艦隊ヲ將テ波斯灣ニ進航セシ
ム而シテ親ラ陸兵ヲ督シテ沙漠ヲ過キペルセ
ホリリスニ至ル更ニ進テ巴比倫ニ入り他日之

ヲ以テ亞細亞屬地ノ帝京ト為シ親ラ之ニ宅ラ
ント欲ス駐輅旬餘熱ヲ病テ殂ス春秋三十三在
位十三年史家或ハ其病源ヲ鯨飲ニ歸ス

(八世) アレキサンドルハ上代ノ英傑ナリ侵掠ノ
速ナル略地ノ廣キ其功烜赫天下比ナント稱ス
古來英雄ノ侵略ヲ事トレ人血ヲ注キ殘虐ヲ行
フ更ニ之ヨリ酷シキアリト雖氏其末路スクノ
如キノ光輝ヲ發スルモノナシ又タ兵ヲ起シ人
ヲ殺ス者ナキニアラスト雖氏其終ヲ全フセズ
シテ為ニ後人ヲ戒ムルノ標準トナリ功罪相償

フモノアリ然リ而シテ人ヲ戒ムルノ功少フシ
テ世ヲ害スルノ罪大ナルモノハアレキサンド
ルヲ以テ最トス

(九廿) アレキサンドルハ多能勇敢ニシテ拔群ノ
成蹟アリ天稟大度ノ美質ヲ具フト雖モ亦夕世
ヲ害シ禍ヲ遺スモノ少シトセズ夫ノアレキサ
ンドルヲシテ大帝ノ尊号ヲ得セシメタルモノ
ハ才幹卓絶ヨク政ヲ施シ博ク人ヲ愛シタルニ
由ラスニテ却テ其武名顯著ナルニ由ル

(十三) アレキサンドルハ幼ニシテ方正謹嚴ヨク

己ニ克ツ國人敬服ス然レ凡天性自尊ノ癖アリ
長ジテ其功業ノ著大ナルニ及ビ意滿チ志驕ル
左右之ニ阿テ益虚勢ヲ張ルヲ樂ミ終ニ自ラジ
ヨピトルノ神子ト稱シテ人類ニアラスト為シ
且ツ己ガ意志ハ即チ以テ民ヲ治ムルノ無上法
ナリトスルニ至レリ嗚呼アレキサンドルヲシ
テ残忍忘恩ノ舉動ヲ為シ其身ヲ誤ルニ至ラシ
メタルモノハ此謬見ニ職由セズンバアラザル
ナリ

(一卅) パルメニオハ武功無二ノ勇將ナリ千軍萬

馬ノ間ニ馳騁シテアレキサンドルヲ輔佐シ敵ヲ破リ捷ヲ制スルヲ得セシノタルモノ皆其力ナリトスアレキサンドル一朝故ナクシテ其異心アラントヲ疑ヒ人ヲシテ之ヲ暗殺セシムクリチユースハアレキサンドルノ益友ナリ嘗テグラニキユースノ戰ニ於テアレキサントルヲ死地ニ脱ス一日アレキサンドル大ニ酩酊スクリチユースト事ヲ論シテ其直言ヲ怒リ槍ヲ以テ其胸ヲ貫キ終ニ死ニ至ラシム又學士カルリスセンスヲ死刑ニ處シ慘酷ヲ極ム其ノアレキ

サンドルニ神事スルヲ肯セサルヲ以テナリ
(二世) アレキサンドルハ天資ノ美ニシテ功業ノ偉ナル世人ノ仰敬シテ止マザル所ナリ然リト雖氏其傳ヲ讀テ詳ニ終生ノ行跡ヲ按ズレバ容易ニ功業ヲ立ツル者ハ竟ニ其心性ヲ敗壞シ兇悍惡ヲ為シテ省ミサル者ハ必ス失望ヲ來タシ禍患ニ陷ルノ免ル可カラサルヲ知り吾人ヲシテ自ラ其身ヲ省ミテ其欲ヲ制シ以テ正義ニ從ヒ仁心ヲ養フノ切要ナルヲ悟ラシム

第十章 紀元前三百二十四年ヨリ同

百四十六年ニ至ル

(一) アレキサンドルハ嘗テ後嗣ヲ定メズ終ニ及テ其指環ヲ將帥バルディクカスニ與ヘタルノミ侍臣問テ曰ク陛下萬歳ノ後チ誰人ニ位ヲ禪テ其國ヲ治メシム可キヤアレキサンドル答テ曰ク賢良ニシテ能ク其任ニ堪ユル者可ナリト其殂スルヤ馬基頓帝國忽チニシテ四分五裂シ勲功ノ將士各地ニ割據シテ國內紛擾金鼓ノ聲ヲ絶タサルモノ久シク古來未曾有ノ慘狀ヲ呈スルニ至レリ

(二)

諸將相會シテ

アレキサンドルノ兄弟ヒリツプアリドース并ニ妃レキサナ生ム所ノ幼子ヲ推シテ其位ヲ繼カシメバルディクカス政ヲ攝ス國ヲ割テ三十三部ト爲シ各々之ヲ分立セシム蓋シ諸將ノ負數ニ準フナリ是ニ於テ彼此互ニ權ヲ争テ相下ラス戰亂相踵ギアレキサンドルノ王統竟ニ絶滅ス將帥アンヂグポニスハ其封土多ク亞細亞地方ニ在リイプレユスニ戰テ大ニ敗ル是ヨリ後チ此國ヲ四分シプロレミーハ埃及ニカツサンドルハ馬基德尼亞及ビ希臘ニ

ライレナチユスハトリース及ヒビシニアニセ
レオクスハ細里亞等ニ據ル
(三) トリースハ其存立久シカラズ紀元前二百
八十一年ニ至テライシナチユスセレオクスト
戰テ敗死シ國竟ニ亡マ基德尼亞ハ紀元前百
六十八年ピドナノ戰ヲ以テ亡ブ是ニ於テ細里
亞及ヒ埃及ノ二國相對峙シテ勢威大ニ振フ細
里亞ハセローシツドノ王統疊世之ヲ治メ埃及
ハプーレミーノ皇裔相繼テ君臨シ終ニ羅馬帝
國ノ版圖ニ入ルニ及テ二國共ニ亡ブ

(四) アレキサントルノ親ラ軍ヲ將テ征略ヲ事
トスルヤ希臘諸州馬基頓ノ機軛ヲ脱セント欲
シ相踵テ反ス就中スパルタノ叛勢最モ猖獗ナ
リアレキサンドルアシチパートルヲ留メテ馬
基德尼亞ヲ守ラレムアンチパートル代之ヲ
平グ
(五) アレキサンドル殂落ノ報アゼンスニ達ス
ルヤ衆民抃喜スデモスゼンスマタ雄辯ヲ揮テ
國人ヲ鼓舞シ以テ本來ノ自主ヲ得セシメント
ス時ニポリオン廉潔無私ノ心ヲ以テ深ク國歩

ノ艱難ヲ慮リデモスセンスノ説ニ反對シ焦心
銳意以テ平和ヲ主唱ス常ニ人ニ語テ曰ク今ヤ
アゼンスノ人民己ニ國光ヲ發揚スルノ力ナシ
故ニ予カ言ニ從テ應分ノ計ヲ為シ夫ノ遂ニ勝
ツ可カラサルノ國ト覺ラ開テ其自滅ヲ速カン
ヨリハ寧口之ト和親シテ國脉ヲ維持スルノ事
ヲ為セト

(六) 然ルニ舉國一旦デモスセンスノ雄辯ニ振
作セラレ締盟聯合以テ其自由ヲ恢復セント欲
シ遂ニ果サズ竟ニアンチパートルノ破ル所ト

爲リ著名ノ辯士十人ヲ殺シテ和ヲ請フニ至ル
夫ノデモスセンスノ如キ即チ其一人ナリ敵手
ニ墜ツルヲ欲セズ自ラ毒ヲ服シテ死ス

(七) ポリスペルコンアンチパートルヲ繼テ馬
基德尼亞ヲ治メ希臘諸州ノ獨立ヲ復セシム是
ニ於テアゼンス俄ニ氣勢ヲ張り曾テアンチパ
ートルノ黨タルモノ數人ヲ殺シアゼンス復タ
擾亂ノ區トナルボシオン亦タ其禍ニ罹ル時ニ
年八十余公義私德兼子備ハリテ名聲最モ高ク
アゼンスノ府尹ト爲ル前後四十五回ニ及ベリ

一友人アリホシオンヲ訪テ其不幸ヲ悲ミ哀惜
己マズボレオン之ヲ顧テ曰ク予固ヨリ此事ア
ルヲ知ル從來アゼンスハ碩學名士ニシテ此禍
ニ罹ル者己ニ少シトセズ不幸豈ニ獨リ予ハハ
ナランヤト

(八) カツサンドルポリスペルコンヲ繼キデミ
トリウスパレロースヲシテアゼンスノ府尹タ
ラシムデミトリウスパレロース職ニ在ル十二
年治蹟大ニ舉リ昇平事ナク繁盛日ニ加ハル府
民恩ニ感ジ其石像三百六十基ヲ建造シテ謝意

ヲ彰表ス

(九) 是ヨリ以降アゼンスノ僅ニ獨立ノ體面ヲ
存スルモ浮沈定リナク勢威漸ク衰ヘ風俗日ニ
輕薄ニ流レテ人民ミナ卑屈ニ安シシ夫ノ自由
ノ精神獨立ノ氣象ノ如キ復タ昔日ノ盛ナルヲ
見ズ

(十) 是時ヨリ羅馬人ノ希臘ヲ征服スルニ至ル
マデ國內諸州變亂踵ヲ接スレバ其間幾ト著跡
ノ記ス可キナシゴールス族大舉シテ疆ヲ侵シ
勢頗ル猖獗ナリ其玉ブレンニウス親テ之ヲ督

ス然レ凡國入終ニ之ヲ破リ斬戮幾ド全軍ヲ殲
クスニ至ル

(一十) ゴールス族ノ入寇アリテヨリ國內大ニ疲
弊ス其僅ニ舊容ヲ復スルニ至テエピリウスノ
王ピルリウス兵ヲ將テ來リ攻ムピルリウスハ
當時ノ英主ニシテ聲名一世ヲ壓スベロポン子
シウスノ諸州為ニ其禍ヲ蒙ル酷シトス然レ凡
ピルリウススパルタヲ伐テ遂ニ克タス後チア
ンコースヲ攻ムルニ方リ一婦人ノ屋上ヨリ瓦
片ヲ投スルニ遇ヒ重傷ヲ負テ死ス

(二十) 希臘ノ人民終ニ其自主獨立ヲ保持セント
欲シ締盟聯合ス之ヲアカイアノ會盟ト名ク初
ノパロポン子レウスノ四小都之ヲ主唱シ幾モ
ナクシテ八都マタ之ニ應シ終ニ國內ノ諸州大
半之ニ加ハリアラチユスヲ推シテ盟主ト為ス
アラチユス已ニ全國ノ獨立ヲ經畫シ法策方ニ
成ルモ二三首要ノ諸州大ニ之ヲ猜忌シ事竟ニ
畫餅ニ屬ス

(三十) ヒロツプノニアラチユスヲ繼クヒロツプ
メンハ嚴正廉直ニシテ俊秀多才ノ士ナリスパ

ルタ及ヒエトリアヲ撃テ之レニ克ツ時人之ヲ
希臘ノ末主ト名ク蓋シ是ヨリ後チ復タ昔日ノ
國光ニ耻チサルノ首領ヲ出セシナキヲ以テ
リ後チソツセニアノ叛民ヲ伐チ虜俘ト為リテ
殺サル

(四) 是時ニ當テ羅馬己ニ隆興シ勢威宇内ヲ壓
スエトリアノ人民其援ヲ請フテ馬基德尼亞ヲ
撃タント欲ス羅馬人報チ之ヲ諾レクインチユ
スフラミニウス兵ヲ將テ馬基頓ノ王ヒリツプ
ヲシノセフエリーニ破リ以テ希臘諸州ニ公告

レテ其自主ヲ得セシム後チ幾ド三十年ヲ經テ
ポールス、エミリウス再ビ羅馬ノ兵ヲ督シテ希
臘ニ來リヒリツプノ子パルシウスラピドナニ
破リ之ヲ捕獲シテ羅馬ニ檻致シ以テ凱旋ノ氣
勢ヲ壯ニス是ニ至テ馬基德尼亞竟ニ羅馬ノ所
轄ニ屬ス

(五) 羅馬ノ人民夫ノ會盟諸州ノ勢威ヲ猜忌シ
陰ニ内訌ヲ誘發シ名士ヲ籠絡シテ之ヲ挫カシ
ト欲ス會スハルタ會盟諸州ト戰ヒ援ヲ羅馬ニ
求ムメテルリウス兵ヲ率テ希臘ニ入り大ニ會

盟諸州ノ兵ヲ破ル殘兵走テコリンスニ據ル羅馬ノ主宰ムンミウス一擊之ヲ拔キ遂ニ全勝ヲ占ム是ニ於テ諸州ノ締盟忽チニシテ解散シ希臘全國竟ニ羅馬ノ所轄ニ歸シアカイアト名ク(六十)希臘已ニ羅馬ノ兵力ニ屈スト雖氏學藝才能及ビ風致ノ進歩ニ至テハ屹然其上ニ位シ羅馬人ノ仰敬スル所ト為ル其賢俊名士ノ如キ多クハ業ヲ希臘學士ノ門ニ受ク故ニ羅馬ノ學術ハ其源ヲアゼンスニ發シ興國却テ降人ノ徒弟タリ

(七十)

當時希臘ノ人民百事天下ニ冠絶スルヲ斯

クノ如シ然レテ詳ニ其沿革ヲ察シテ一々其事跡ヲ誓フレバ嘉ミス可キモノ多ク又ダ惡ム可キモノ多シ其ノ才智ヲ研キ風致ヲ愛シ學藝ヲ修メ且ツ國ヲ憂ヒ勇ヲ養ヒ自由ヲ尊ブノ心ニ至テハ實ニ上代ニ在テ比肩ス可キモノナシ(八十) アゼンスノ事跡ヲ追究スルニ方リ讀者ヲシテ最モ感激ニ堪ヘサラシムルモノハ其良民義士ヲ罪シ碩學鴻儒ヲ殺シテ忘恩不正ノ舉アルニ至リシモノ是ナリミルチユードスアリス

チツドスセミストクルスシモンポシオシ及ヒ
ソクラテスノ如キ其著明ナル者ニシテ或ハ之
ヲ死刑ニ處シ或ハ之ヲ國外ニ謫流ス而シテア
ゼンスノ人民固ト輕躁ニシテ定見ナシ故ニ又
タ幾モナク寛大正義ヲ唱ヘテ其功德ニ報ント
欲シ嚮キノ証告者ヲ捕ヘテ之ヲ刑スルニ至レ
リ
(九十) 史家往々希臘ノ德世ヲ記スルアリト雖凡
其事多クハ怪妄ニ属シ希臘史上曾テ斯クノ如
キモノアルナシ蓋シ希臘ハ何レノ地何レノ時

ニ論ナク公義私德共ニ低度ニ位シ是非ノ準繩
甚ダ明カナラス碩學名士ニシテ猶ホ且ツ國事
ヲ處スルニ輕躁意ヲ用ヒス外ソノ國威ヲ張リ
内ソノ強州ヲ壓スルヲ以テ正義ト為シ人命ヲ
損シ國害ヲ來タスガ如キハ措テ顧ミサルノ状
アリ
(十一) ミットフオールド曰クエキセノホシ及ビ
ラトハ書ヲ閱スルニ當時是非曲直正邪ハ分界
ヲ定ムルニ人ミナ一個ハ私見ヲ以テシ絶ハテ
國是ハ在ル所ヲ詳ニスル者ナシ殊ニ國事ヲ處

シ公務ヲ施スニ至テハ臆測ヲ以テ是非ヲ斷ス
ルヲ常トスト

(一) 往古希臘ハ暴戾捨奪舉國風ヲ成シ降テ耶
蘇紀元ノ前ニ至リエピクルスノ學大ニ行ハレ
且ツ百事ヲ把テ疑惑ニ付シ真道ヲ信セサルノ
徒漸ク多ク風俗隨テ敗壞ヲ極ム斯クノ如キハ
古來稀ニ見ル所ニシテ多ク聞カサル所ナリ字
内ノ史ヲ讀ム者ハ人ヲ導クニ其社會ノ一頁夕
リ一個ノ生靈タルニ論ナク獨リ智術ヲ以テス
ルノミナラズ更ニ進テ高尚ノ妙理ニ依ラサル

可カラサルヲ知ルニ至ラン

第十一章 希臘ノ故事

希臘ノ學派

古代哲學ノ門派ハ多ク希臘ニ出ツ而シテ其文
學ノ隆盛ヲ極ノタルハ紀元前第四世紀ヨリ第
五世紀ノ間ニ在リ

希臘ノ學派ニシテ其最モ古キモノヲ「イオニツ
ク」派トス幾何及ビ星學ヲ以テ聞ヘタル「タール
ス」ノ開創スル所ニ係ル

「イタリアン」派ハ「ピタゴレアン」派ト曰フビ

タゴラスノ創スル所ナリ靈魂ノ移傳ヲ説クヲ
主トス

ソクラテツク派ハソクラテスヲ以テ始祖トス

ソクラテスハ智徳無比ノ賢哲ニシテ國人仰テ

泰斗ト為ス創メテ修身學ノ基ヲ開ク

シニツクス派ハアンチスセニスノ創スル所ニ

シテテイオセニスノ承繼ニ成ル其説ク所知識ヲ

把テ無用ノ長物ト為シ超然高踏シテ塵界ノ福

利ヲ去リ恣ニ浮世ノ汚濁ヲ詈ルヲ樂ム

アカデミック派ハプラトノ立ツル所ナリプラ

トハ其ノ人ヲ教フル高妙ノ説ヲ以テシ其道ヲ
述ブル電舌縦横ナリ時人敬服スアゼンスノ近
傍アカデミウスノ林中ヲ以テ開講ノ地ト為セ
リ

ペリパテチツク派ハアリストトトルヲ以テ始

祖トスアリストトトルハ學校ヲアゼンスノラ

イセウムニ開キ其學第十六世紀ニ至ルマテ廣

ク天下ニ行ハル

スセプチカル派ハピルロノ創スル所ニシテ

百事ヲ把テ疑惑ニ付シ以テ無上ノ真學ト為ス

ストイック派ハゼノノ立ツル所ナリ其ノ人ヲ
教ユルヤ堅忍剛毅ニシテ痛苦ヲ以テ害惡ニア
ラズト為シ務メテ情欲ヲ制スルヲ以テ主トス
〔エピキウレアンス〕派ハエピキウルス其開祖タ
ルヲ以テ之ヲ名ク其説クトコロ人生無上ノ幸
福ハ快樂ニ在リトス
タイトレル曰ク希臘ノ學ハ之ヲ要スルニ人心
ノ痿應輕薄ヲ寫出セルモノタルニ過キス蓋シ
學士ノ人ヲ教ユル曾テ實驗觀察ニ據ルモノナ
ク往々一個ノ私見ヲ以テ説ヲ創シ深ク自ラ信

シテ復タ怪ム所ナシ故ニ其歸著スル所人心ヲ
惑ハシ智徳ハ進步ヲ妨クルニ外ナラズ是レ他
ナシ立論ハ根據實事ニ基クモノナキヲ以テナ
ルト

學士及ビ詩人

希臘ノ學士詩人等ハ其氏名希臘文學年表ニ詳
載ス就テ見ル可シ

ホーメルハ史詩ニ長シピンドルハ琴詩ヲ善ク
シエアスチルスエウリピッドスソツフオクル
スアリストハ子ス及ビメナンドルハ戯曲ノ詩

ニ巧ナリ之ヲ希臘詩人ノ著名ナル者トス詩人
ホーメル及ビヘシオツドハ蓋シ紀元前第九世
紀ト第十世紀ノ間ニ於テ其名特ニ著ハル

美術家及ビ史家

ヒダイアス及ビプラキントルスハ雕像ニ長シホ
リグノーチユスパルラシウスゼオキシニス及ビ
アペルレスハ描畫ニ達セリヘロドチユスト
シデイツドスエキセノホンポリビウステイオトリ
ユスシクリウス及ビハリカルナシウスノダイオ
ニレウスハ史家ヲ以テ鳴ル

七賢士

ミレチユースノタールスアセンスノソロン
リイ子ノピアスラヤドモンノチロミチレ子
ノピツタキユスリンドーソノクレオプルス及
ビコリンスノパリアンドルヲ希臘ノ七賢士ト
ス史家或ハパリアンドルヲ除キテマイソンヲ
加ヘ或ハアナカルシストラ入ル

希臘公會

希臘公會ハ上古テツサリノ王デオカリオン
ノ子アムピクチオンノ開創ニ係ル其組織タル

ヤ各州ノ代議士ヲ以テ之ニ充ツルハ恰モ日耳曼帝國ノ國會ニ彷彿タリ始メ十二府即チ十二州ヨリ十二名ノ代議士ヲ集ム後チ其定員ヲ増シテ二十二人ト為シ更ニ又コレヲ三十名トス開會ノ期ヲ一年二回トシ春期ニハデルビニ集リ秋期ニハセルモピールニ會ス此公會ノ目的ハ各州ノ親和ヲ計リ彼我ノ平安守防ヲ議シ諸府ノ罅隙ヲ調和シ國際公法ヲ犯ス者ヲ糾問シ兼テ又デルヒノ神廟ヲ保護スルニ在リト云フ

神託

往時希臘ノ人民ハ大事アル毎ニ必ス是非得失ヲ神託ニ問フノ習アリ即チ開戦ヲ公告シ和議ヲ決定シ政體ヲ一新シ若クハ法律ヲ議定スル等ノ事アルガ如キ是ナリ就中デルヒ并ニテロースニ在ルアポルロノ神廟ドドナニ在ルジヨピトルノ神廟レバデアニ在ルトロホニウスノ神廟ノ如キ最モ著名ノ靈場ト稱ス

祭節

希臘ニ於テ公衆相集リテ遊戯ヲ行フモノ四節

アリ其之ヲ行フ威儀肅然礼ヲ失フモノアルナ
シ即チ〔オリンピツク、ガムス〕〔ピリアン、ガムス〕〔メ
子アン、ガムス〕及ビ〔イスミアン、ガムス〕是ナリ
以上四節必ス競跳、競走、競擲、鬥拳、角力、競馬、競車
ノ遊戯ヲ行ヒ且ツ各派ノ詩人、辯士、伶人、學士及
ビ美術家相集テ其技ヲ鬪ハス
往古希臘ニ於テハ人ミナ競走ヲ愛重スル殊ニ
甚シ競跳ハ間亦重量ヲ携ヘ或ハ之ヲ頭項肩上
ニ載セテ其技ヲ行フアリ鬪拳ハ鬪客互ニ革
帶ヲ以テ其腕ヲ蔽ヒ石丸若クハ鉛球ヲ握テ相

打ツ

〔オリンピツク、ガムス〕ハヘロキウルスノ創ムル
所ニシテ每五年ノ第一月オリンピアノ府城ニ
於テ五日間之ヲ行ヒ以テジヨピトル神ヲ祭ル
内外ノ人民四方ヨリ沓至ス若シ競戯ヲ行ハン
ト欲スル者ハ預メエリスノ體操學校ニ入り十
月間ソノ課程ヲ履テ技倆ヲ研クニアラサレバ
之ヲ許サ、ルノ法アリ
競戯ヲ行フ者ハ不正ノ方便ヲ用ヰテ勝賞ヲ得
ント欲スルノ心ナキラ誓言セサル可カラズ而

シテ勝テバ必ス橄欖ノ冠ヲ受ク此賞ヤ元ト兜
戲ニ類スト雖氏時人ノ之ヲ貴重スル金紫膏十
ラズ勝ツ者アル毎ニ喝采地ヲ動ス其ノ家ニ歸
ルノ狀意氣揚々恰モ勇將ノ凱旋ニ均シ
希臘人ハ歲月ヲ算スルニ此等ノ祝節ヲ以テ期
ト為シ甲節ヨリ乙節ニ移ルノ間ヲ一四年期ト
名ク

〔ピシアンガムス〕ハ每四年期ノ第二年ヲ以テ五
年毎ニデルヒノ近傍ニ於テ之ヲ行ヒ以テアポ
ルロ神ヲ祭ル競戯ニ勝ツ者ハ桂冠ノ賞アリ

〔子メアンガムス〕ハ三年毎ニ子メアノ府城ニ於

テ之ヲ行ヒ競戯ニ勝ツ者ハ行冠ノ賞ヲ受ク

〔イスミアンガムス〕ハコリンスノ地峽ニ於テ之

ヲ行フ故ニ此名アリ每三年若クハ每五年ヲ以
テ期節ト為シ子プチエン神ヲ祭ル而シテ其期
節ハ最モ之ヲ鄭重ニシ國難世禍アリト雖氏必
ス之ヲ行フ競戯ニ勝ツ者ハ松葉冠ヲ以テ賞セ
ラル

アゼンスノ政治

民等 アゼンスニ於テハ人民ノ等位ヲ分テ三

種トス府民羈客及ビ奴隸是ナリ
府民ハ一種ノ特權ヲ有スル等位ニシテ治國
ノ權專ラ其掌中ニ屬ス之ヲ分テ十族ト為シ府
民必ス府内ニ居ルニアラス間亦アツチカノ小
邑ニ在ル者アリ時人夫ニ府民ノ特權ヲ尊重シ
之ヲ得ル極メテ難シトス
羈客ハ府内ニ在テ其業ヲ營ムヲ得ベシト雖凡
公會ニ臨テ發言スルノ權ナク又タ官途ニ就ク
ヲ得ス
奴隸ハアツチカノ民籍中十ノ八九ニ居ル常ニ

人ニ役セラレテ或ハ耘耕ヲ事トシ或ハ採礦ニ
從事シ或ハ家僕ト為ル固ヨリ自主ノ權ナク日
夜勉々終生榮達ノ期アルナシ
官吏 行政ノ主權ハ監國アムニスノ專有スル所ナリ監
國ハ毎年之ヲ撰舉シ定負ヲ九名トス出入必ス
神樹ミカドノ冠ヲ戴キ待衛ノ士常ニ其身ニ隨フ
九名ノ第一位ニ在ル者ヲ特ニ監國アムニス長ト名クア
ツチカ州内ノ寡孤ヲ監護シ遺產ノ訴訟ヲ判決
スルヲ以テ職務ト為ス在職ノ間モシ醉酗ノ失
體アレバ死刑ヲ以テ論セラル

其第二位ニ在ル者ヲ副官ト名ク祭儀ヲ監シ僧侶ノ争論ヲ救解スルヲ以テ職トス
其第三位ニ在ル者ヲ準副官ト名ク始メ軍事ヲ督スルノ職タリシガ後チ外人羈客ニ關スルノ事務ヲ管掌シ戰死者ノ祭典ヲ司リ及ビ其遺子ノ教育ヲ監督スルヲ任トス
自餘ノ六名ヲ立法議官ト名ク卿丞僚属ヲ推舉シ條約聯盟ヲ締結シ刑事民事ノ訴訟ヲ審聽スルモノトス
アゼンスノ官吏ハ之ヲ大別シテ三種トス第一

種ハ民撰官ナリ人民ソノ撰舉會ヲ開クニ方リ舉手ヲ以テ投票ニ代フ第二種ハ中籤官ナリ人民是認スル所ノ人ヲセシウス神ノ祠堂ニ集メテ籤ヲ抽カシノ中ル者ヲ舉ゲテ官ニ薦ム第三種ハ特撰官ニシテ二三雄族ノ特ニ撰任シテ公務ニ從事セシムルモノナリ
府民ノ貧賤ナル者ハ必シモ政務ニ與リ高官ニ昇ルノ道ナキニアラズト雖モ高位顯職ヲ占ムル者ハ概子門地名望相備ハリテ資産學識共ニ乏シカラサルノ紳士ナリ候補タル者ハ先ツ公

館ニ至テ其履歷ヲ述ベサル可カラズ已ニ官ニ就キ在職ノ間モシ公務上ノ過失アレハ糾問ヲ受クルノ責任アリ故ニ任滿ルノ後チ處務ノ報告ヲ為サ、ル可カラズ是レヨリ三十日以内ハ何人ト雖、凡之ヲ告訴スルノ權アリ
會議 アセニスノ民會ハ府民ヲ以テ之ヲ組織シ、羈客、奴隸、婦女、幼童、及ヒ嘗テ醜行ヲ以テ刑ニ觸レタル者ハ議ニ與ルヲ得ス、閑會ノ期ハ三十日、間四回ニシテ會場ハ公館會堂若クハバツコース、神ノ祠堂ナリ

議負ノ上場モシ六千人ヲ下ル、片ハ議ヲ開キ事ヲ決スルヲ得サルノ法ナリ、會ヲ開クニ方リ議已ニ盡キテ議長決ヲ命スレバ衆負舉手シテ可
否ヲ示ス

元老院 元老議負ハ毎年之ヲ撰定ス、始メ其定負四百名ナリ、ンガ後チ之ヲ増加シテ五百名トス、人民ニ諮問ス可キ議案ヲ預審シ且ツ之ヲ會議ニ付スルノ後チ其公益ヲ害セシヤ否ヲ檢視スルヲ以テ職務ト為ス、官吏ノ報告ヲ審査シ艦隊ノ整否ヲ監察シ及ビ成文律ニ明條ナキ犯罪

人ヲ處刑スルカ如キ亦ソノ職任ナリ
高等法院アオバギニス 高等法院ハ名稱ヲマルス神ノ靈陵
ノ義ニ取ル蓋シ之ヲ以テ其法廷ニ充テタルニ
因ル往古著名ノ法院ナリ違法讒毀ノ罪科ヲ審
斷シ兼テ政教ニ關スル更新ノ事ヲ檢察ス且ツ
教育ノ洽否ヲ監シ風俗ノ醜美ヲ察シ成法ノ當
否ヲ視ル法官モシ其會議ニ臨テ笑フイアレバ
輕行ヲ以テ之ヲ論シ其罪ヲ免サズ
貝殼流刑オストラシム 貝殼流刑ハアゼンス其他希臘二三
ノ州ニ於テ舉行シタル一種奇異ノ惡法ナリ府

民モシ己レニ害アリト認タル者アレバ其氏名
ヲ貝殼ニ記シテ栗ヲ投ス多數ヲ得ル者ハ五年
十年若クハ二十年間ノ流刑ニ處セラル當時何
等ノ罪科ト雖氏其寃ヲ訴ヘテ之ガ虛實ヲ辨明
スルノ道ナク流刑ニ處セラレタル者ノ財産榮
譽ノ如キ亦タ之ヲ保護スルノ法アルナシ
貝殼流刑ハ元ト兇暴無道ノ法ナルヲ以テ往々
擅横ヲ行ヒ惡意ヲ逞スルノ具ト為リアゼンス
ノ人民ヲシテ忿怒不正ノ行ヲ爲ス一ツニシテ
足ラズ永ク醜名ヲ青史ニ垂ル、ニ至ラシメタ

スバルタノ政治

民等。スバルタノ人民ハ府民及ビ奴隸ノ二種ヲ以テ之ヲ組織ス

府民ヲ分テ上下ノ二等ト為シ上等ホモニ位スル者ハ專ラ被撰任官ノ權ヲ有シ下等ホモニ居ル者ハ貧民ニシテ唯ダ官吏撰舉ノ權アルノミ

奴隸ハ其數府民ヨリモ多ク或ハ田野ニ耕シ或ハ人家ニ仕ヘテ勞役ニ從事ス間亦艦隊ニ入テ水手ト為リ陸軍ニ附屬シテ兵士ニ扈從スル者

アリ

國王。スバルタハ共治政體ニシテ二名ノ主宰

アリ之ヲ國王キングト名ク憲法アリテ大ニ其權域ヲ制限ス即チ元老院ノ議長ニシテ僧官ノ首位ニ在リ一王軍ヲ督シテ外ニ在レハ一王ハ國ニ留テ内治ノ事ニ從フ其官衙ニ臨ムヤ一人ノ從者ナク其狀態幾ド尋常一般ノ府民ニ異ルヲナシ元老院。スバルタノ元老院ハ二名ノ國王及ヒ二十八名ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス議員ハ民撰ニメ年齡六十ヲ越ヘ在職終身ナリ即チ大政ヲ

議スルノ會負ニシテ凡ソ和戰其他國事ノ重大ナルモノハ悉ク其議ヲ經テ之ヲ決ス此會議ニ與ル者ハ幼ナルヨリ思慮ニ富ミ長シテ德行ヲ積ム者ニアラサレハ能ハズ
公撰官。スバルタニ於テハ每歲五名ノ官吏ヲ府民ノ各等中ヨリ公撰シ之ヲ公撰官トス普通ノ教育ヲ監視シ兼テ内治ヲ圖ルヲ以テ任トス
會議。スバルタニ二種ノ公會アリ一ヲ大會ト名ケ盡クアラコニア州中ノ府民ヲ會シ一ヲ小會ト稱シスバルタノ府民ニシテ三十歳以上ノ者

ヲ集ム大會ハ和戰ヲ決シ大事ヲ議スルヲ要スル時ニ於テシ小會ハ每望之ヲ開キ國王繼任ノ事ヲ理整シ及ビ政教ニ關スルノ條件ヲ議ス

希臘史年表

紀元前	八	七	六	五	四	三	二	一					
第八世紀	七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 一〇	第七世紀	八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 一〇	第六世紀	六二 六一 一〇	第五世紀	九四 九三 九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 一〇	第四世紀	三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一	第三世紀	二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一	第二世紀	四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一

表中年載スル所ノ事蹟ニ就テ其年代ヲ考明セント欲セハ每事ノ冒頭ニ附記セル年數ヲ下段ノ世紀ニ加算ス可シ之ヲ例セ第一ノ四年期ハ紀元前七百七十六年ノ起創ニ係ル

第一四年期創マレ

テエロツプス始メテアゼニスト下ニ職ノ監國ト為ル

メツセニアノ第一役起ル七百二十四年其局ヲ結ビアイソトムヲ畧ス

メツセニアノ第二役起ル六百二十二年ニ至テ熄ムメツセニア降ル

クレオン始メテアゼニスノ年位ノ監國ト為ル

ドラコ奇法ヲ制シテアゼニスノ人氏ヲ虐ス

タリス始メテ日蝕ノ期ヲ算定ス

ソロン新法ヲ制定シテアゼニスヲ治ム

戲劇并ニ悲劇始メテアゼニスニ行ハル

ピストラチニス虐政ヲアゼニスニ施ス勢威大ニ振テ

政府大ニ文學ヲ勸奨スホーメルノ詩書合卷壹冊ト為ル

ピストラチニスノ子ヒッピヤス及ヒヒッパラチニス共ニ立テアゼニスヲ治ム

ヒッパラチニス殺サレ五百十年ヒッピヤス國ヲ逐ハル

波斯ノ役起ルミルチエードスマラソンニ戰テ大ニ克ツ

レオニダスビバモビルニ戰ツ

セミストクルスウラミリスニ戰テ大ニ克ツ

希臘ノ兵プラテア(アリスチアトス)之ヲ督ス及ビマイカニ戰テ大ニ克ツ

シモンエカリメトシノ河ロニ戰テ大ニ克ツ

メツセニアノ第三役起ル

ヘロドチニス(オリンピウスカムス)ニ際テ自ラ撰スル所ノ史記ヲ讀ム

ヘロポンチニスノ役起ル四百二十三年終ルアゼニス惡疫大ニ行ハル

ライサンドルエゴリスボタモリスニアゼニスノ兵ヲ破ル

三十崖官國ヲ逐ハル學藝大興エギゼノホント萬兵ヲ擄テ退軍スソクラテス死ス

アゼネロリスアゼニスヒトリス等ノ兵ヲコロチアニ破ル

アンタルレダスノ調停ニヨリスハルタ及ヒ波斯ノ和成ル

セーアスノエバミノンダススハルタノ兵ヲレオクトラニ破ル

エバミノンダススハルタノ兵ヲマンチアニ破ル

第一聖戰起ル二百四十八年終ルヒリツアオリンレウスヲ略ス

第二聖戰起ル二百三十八年終ルヒリツアオリンレウスヲ略ス

アレキサンデル波斯ヲ伐ツクラニレウス河畔ニ戰テ大ニ克ツ

アイビウスノ戰アリ三百三十二年終ルタイルヲ抜キ埃及ヲ略ス

アルベラノ戰アリ波斯ヲ征服ス二百二十四年終ルアレキサンデル死ス

イフレウスノ戰アリアレキサンデル所轄ノ國土分裂ス

テモトリウスボリオルセトスアゼニスヲ抜ク

アカイアノ會盟成ルエトリアノ會盟作ル

アレクシニスゴリス族ヲ將テ希臘ヲ侵ス

ピルリウス希臘ヲ攻メテアルゴリス死ス

アルンデリアニマール成ル

クレオン子スバルダノ政務ヲ更正ス

アラチニスアカイア會盟ノ兵ヲ將テエトリアト戰フ

ヒッパランアカイア會盟ノ兵ヲ督シテエトリアノ軍ヲ破ル

カイセバルノ戰アリ羅馬ノ軍馬基德尼亞ノ兵ヲ破ル

ピドナノ戰アリ羅馬ノ軍馬基德尼亞ノ兵ヲ破リ其國竟ニ羅馬ノ所轄ニ屬ス

メテリウスノ戰アリ羅馬ノ將レガカイア會盟ノ兵ト戰テ大ニ之ヲ破ル

ムレミウス羅馬ノ軍ヲ督シテコロリスヲ略ス希臘竟ニ羅馬ノ所轄ニ歸シアカイアト名ク

希臘文學年表

紀元前 政事家及武人	學士	詩人及美術家*	史家及辨士	時王
第七紀 アリストメデス ドラユ	チロー ピツタキユス クレオサル タルス アナカリス アナキスマンドル エギセノハニス アナギジノキリス	ナルテウス アルチロトユリス テルパンドル アルセウス サツホ イソツア エビメニドス ステレコリス ミンチルミウス セスピリス ソウサリオン	ナルテウス アルチロトユリス テルパンドル アルセウス サツホ イソツア エビメニドス ステレコリス ミンチルミウス セスピリス ソウサリオン	又ムマ ピヨニア ヒアキセルス 子フクトニソル セルピウスチユルリス クレネウス レリウス タルクイニプロロド カムピリス
第六紀 ベリアンドル ソロン サレオクス ヒシストラナユス ヒシアス ヒツハラチユリス ハルモテナス アリストパツト ミルマニドス レオニダス アリスチウツドス パウサニアス セニストクルス ヒモン ヘリツクルス ニレアス アルニヒアドス クレチアス ライカントル スラレホウリス アソ ヘロヒダス ニハミノクタス アセレウス トモレオン バルメニオ ヘルツカス ホニオン ホレスヘルコン アンナユニウス	ヘラクラチユス メリチレウス ゼノ(ストイッ之派始祖) エンベトクルス アナキカゴラス テイアゴラス チロト プロクダラス レラプス ソクラテス エウクリッド モカラ ヘート アテナ セテス アリスチウス ナモセレウス ヒボクテアス デモリリチユス フラト ラタオゼ子ス アリストトトル ヒル エウクレット アレキサンドリア	フナクレオン レニドス エスレウ ヒンダ ヒテイア ソオ エオ ホルゴノチユス ミレウ ソボ アリスチウス ゼオキリス モオハ ナモセレウス ライレツナス アベルス	ヘロドチユス ゼオルアス アリスチウス トウレテイウツドス ライアス クレアス エギセア アイトラス アイトラス バイロ デモスセテス エスチ	ダリウス エギセルキス ヒエロ アルタキセルス アカニウス ヒリツク アレキサントル クリウス コドマニウス ライレマチユス カツサンドル セロークス アトレミ ピルリウス アトレミ
第五紀 アリスチウツドス パウサニアス セニストクルス ヒモン ヘリツクルス ニレアス アルニヒアドス クレチアス ライカントル スラレホウリス アソ ヘロヒダス ニハミノクタス アセレウス トモレオン バルメニオ ヘルツカス ホニオン ホレスヘルコン アンナユニウス	ソクラテス エウクリッド モカラ ヘート アテナ セテス アリスチウス ナモセレウス ヒボクテアス デモリリチユス フラト ラタオゼ子ス アリストトトル ヒル エウクレット アレキサンドリア	フナクレオン レニドス エスレウ ヒンダ ヒテイア ソオ エオ ホルゴノチユス ミレウ ソボ アリスチウス ゼオキリス モオハ ナモセレウス ライレツナス アベルス	ヘロドチユス ゼオルアス アリスチウス トウレテイウツドス ライアス クレアス エギセア アイトラス アイトラス バイロ デモスセテス エスチ	ダリウス エギセルキス ヒエロ アルタキセルス アカニウス ヒリツク アレキサントル クリウス コドマニウス ライレマチユス カツサンドル セロークス アトレミ ピルリウス アトレミ
第四紀 アリスチウツドス パウサニアス セニストクルス ヒモン ヘリツクルス ニレアス アルニヒアドス クレチアス ライカントル スラレホウリス アソ ヘロヒダス ニハミノクタス アセレウス トモレオン バルメニオ ヘルツカス ホニオン ホレスヘルコン アンナユニウス	ソクラテス エウクリッド モカラ ヘート アテナ セテス アリスチウス ナモセレウス ヒボクテアス デモリリチユス フラト ラタオゼ子ス アリストトトル ヒル エウクレット アレキサンドリア	フナクレオン レニドス エスレウ ヒンダ ヒテイア ソオ エオ ホルゴノチユス ミレウ ソボ アリスチウス ゼオキリス モオハ ナモセレウス ライレツナス アベルス	ヘロドチユス ゼオルアス アリスチウス トウレテイウツドス ライアス クレアス エギセア アイトラス アイトラス バイロ デモスセテス エスチ	ダリウス エギセルキス ヒエロ アルタキセルス アカニウス ヒリツク アレキサントル クリウス コドマニウス ライレマチユス カツサンドル セロークス アトレミ ピルリウス アトレミ
第三紀 アリスチウツドス パウサニアス セニストクルス ヒモン ヘリツクルス ニレアス アルニヒアドス クレチアス ライカントル スラレホウリス アソ ヘロヒダス ニハミノクタス アセレウス トモレオン バルメニオ ヘルツカス ホニオン ホレスヘルコン アンナユニウス	ソクラテス エウクリッド モカラ ヘート アテナ セテス アリスチウス ナモセレウス ヒボクテアス デモリリチユス フラト ラタオゼ子ス アリストトトル ヒル エウクレット アレキサンドリア	フナクレオン レニドス エスレウ ヒンダ ヒテイア ソオ エオ ホルゴノチユス ミレウ ソボ アリスチウス ゼオキリス モオハ ナモセレウス ライレツナス アベルス	ヘロドチユス ゼオルアス アリスチウス トウレテイウツドス ライアス クレアス エギセア アイトラス アイトラス バイロ デモスセテス エスチ	ダリウス エギセルキス ヒエロ アルタキセルス アカニウス ヒリツク アレキサントル クリウス コドマニウス ライレマチユス カツサンドル セロークス アトレミ ピルリウス アトレミ
第二紀 アリスチウツドス パウサニアス セニストクルス ヒモン ヘリツクルス ニレアス アルニヒアドス クレチアス ライカントル スラレホウリス アソ ヘロヒダス ニハミノクタス アセレウス トモレオン バルメニオ ヘルツカス ホニオン ホレスヘルコン アンナユニウス	ソクラテス エウクリッド モカラ ヘート アテナ セテス アリスチウス ナモセレウス ヒボクテアス デモリリチユス フラト ラタオゼ子ス アリストトトル ヒル エウクレット アレキサンドリア	フナクレオン レニドス エスレウ ヒンダ ヒテイア ソオ エオ ホルゴノチユス ミレウ ソボ アリスチウス ゼオキリス モオハ ナモセレウス ライレツナス アベルス	ヘロドチユス ゼオルアス アリスチウス トウレテイウツドス ライアス クレアス エギセア アイトラス アイトラス バイロ デモスセテス エスチ	ダリウス エギセルキス ヒエロ アルタキセルス アカニウス ヒリツク アレキサントル クリウス コドマニウス ライレマチユス カツサンドル セロークス アトレミ ピルリウス アトレミ
第一紀 アリスチウツドス パウサニアス セニストクルス ヒモン ヘリツクルス ニレアス アルニヒアドス クレチアス ライカントル スラレホウリス アソ ヘロヒダス ニハミノクタス アセレウス トモレオン バルメニオ ヘルツカス ホニオン ホレスヘルコン アンナユニウス	ソクラテス エウクリッド モカラ ヘート アテナ セテス アリスチウス ナモセレウス ヒボクテアス デモリリチユス フラト ラタオゼ子ス アリストトトル ヒル エウクレット アレキサンドリア	フナクレオン レニドス エスレウ ヒンダ ヒテイア ソオ エオ ホルゴノチユス ミレウ ソボ アリスチウス ゼオキリス モオハ ナモセレウス ライレツナス アベルス	ヘロドチユス ゼオルアス アリスチウス トウレテイウツドス ライアス クレアス エギセア アイトラス アイトラス バイロ デモスセテス エスチ	ダリウス エギセルキス ヒエロ アルタキセルス アカニウス ヒリツク アレキサントル クリウス コドマニウス ライレマチユス カツサンドル セロークス アトレミ ピルリウス アトレミ
紀元前 政事家及武人	學士	詩人及美術家*	史家及辨士	時王

詩人ホーメル及ヘシオットハ蓋シ紀元前第九世紀ト第十世紀ノ間ニ於テ其名特ニ著ハル